

---

令和4年度  
阪神北☆夢づくり応援事業事例集

---



阪神北県民局県民交流室県民課

---

令和4年度 阪神北☆夢づくり応援事業事例集 目次

No	市町	団体名	事業名称	ページ
1	川西市	まちの宝物サポート隊	まち歩きマップで川西の魅力を再発見！	1
2	川西市	マザーツリー (旧：ママのねフェスタ実行委員会)	妊産婦の不安と孤立感の解消を目指した「継続ケア」普及啓発事業	3
3	宝塚市	一般社団法人 地方創生パートナーズ	空き家・空き地の未然対策による持続可能なまちづくり事業	6
4	宝塚市	なないろまっぷ	子育てに優しい街宝塚プロジェクト	8
5	猪名川町	NPO法人いながわりリンク	あわてんぼうのクリスマス★ナイト2022	10
6	三田市	三田市合唱連盟	第47回 三田市合唱祭	12
7	川西市	サークルささると	ママと子どもが笑う子育て応援事業	14
8	伊丹市	特定非営利活動法人アイリス	STOP! THE 介護離職	17
9	三田市	特定非営利活動法人 里野山家	三田高平、みんなで楽しく農業（里山風景保全）	19
10	三田市	能楽と郷土を知る会	地域ゆかりの能《鼓の瀧》復元プロジェクト	25
11	三田市	特定非営利活動法人 縁農ネット	畑でおいしくたのしくつながるめぐるぐるプロジェクト	28
12	宝塚市	宝塚アカデミー音楽団	第17回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会	30
13	伊丹市	まちなかサロン「ここ！イコ」	まちなかサロン「まちなか寄席～笑いで認知予防～」 「まちの先生シリーズ」	33
14	川西市	ちびっこエジソン	大学生によるパソコンを使わないプログラミング教室	37
15	伊丹市	haz algo	伊丹 JAZZ CARNIVAL 伊丹ハロウィンツアー	39
16	伊丹市	男性の地域社会デビューを応援する会	パンづくり男性ボランティア養成事業「パンダ・プロジェクト」	43
17	宝塚市	宝塚フレミラしぜんクラブ	宝塚子供と自然のふれあいプロジェクト	46
18	猪名川町	特定非営利活動法人 猪名川つながり創造研究所	「安心できる場所と反差別の価値観を共有できる仲間づくり事業」	48
19	川西市	けやき坂小学校校区自主防災会	自主防災会拠点整備及び防災マップ作成事業	50
20	三田市	あかしあ台体育振興会	あかしあ台・さくらファミリーハイキングと名所探索	52
21	川西市	Apple English	Fun Fun English! はじめてのたのしいえいご体験	57
22	伊丹市	はじめてパソコン	デジタルカアッププロジェクト	59
23	宝塚市	特定非営利活動法人AIラボ宝塚	AIお悩み相談24aiueoBOT	61

## 事業名 ( まち歩きマップで川西の魅力を再発見！ )

<b>団体名</b>	まちの宝物サポート隊	<b>代表</b>	光本 芳子		
<b>協働団体</b>					
<b>活動地域</b>	川西市 南部地域				
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>川西市の副題である「清和源氏のふるさと」に関わる寺社や文化財の魅力を再発見し磨き上げ、発信することで行政のブランディングと整合性を保つこと、また市民の愛着形成をめざす。</p> <p>将来的には隣接する市と連携を図ることの準備をしていきたい。</p> <p>たとえば、宝塚市はウィルキンソンの炭酸の歴史を持っており、2020年度の兵庫観光本部のヒトタビHYOGOの観光事業で取り上げられた。</p> <p>川西市の三ツ矢サイダーの炭酸水の発見の歴史とも連携できる可能性を秘めている。</p>				
<b>事業内容</b>	<p>令和3年度から着手したまち歩きマップ作成事業が全体像である。市全体を事業を進めるなかで「北部、中部、南部」にエリア分けし、第一弾はタイトル「清和源氏のふるさと探訪 源満仲公と三ツ矢の歴史を巡る」として中部エリアの多田神社をゴールとした。行政と地元大学、企業と連携しまち歩きマップを作成・配布を行った。</p> <p>令和4年度は、第二弾として南部エリアの満願寺をゴールとし「清和源氏のふるさと探訪 シリーズ第2弾 金太郎、鬼退治に！」のタイトルでゴールとなる満願寺、また満願寺で行われるモルックというスポーツの団体の協力を得てまち歩きマップを作成。マップの配布については市役所の窓口、能勢電鉄など、行政・地元の企業・協力店舗へ配布し市内外の方が手に取りやすくした。</p> <p>※令和5年度は北部エリアを作成する予定でこの3部を以て川西市全体を網羅する。</p>				
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日 (年-月-日)</b>		<b>事業概要</b>	<b>参加人数 (人)</b>	
				<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
			※随時ミーティングを重ねた		
			※マップ紹介の場となる「まち歩きイベント」のミーティングも月1度のペースで実施	3	15
			(コミュニティ代表各3~5名、大学から1~3名、サポート隊から約3名：毎回約18名)	3	15
	R4	8 6	ゴール地点の満願寺ご住職へヒアリング	4	2
		8 18	川西モルックの会の代表へインタビュー	2	2
		9 20	読売新聞のインタビュー 9/27掲載 ※別途資料	7	0
		11 6	まち歩きマップ委員会：ミーティング	4	0
		11 8	コース策定の散策	3	0
R5	2 6	マップデザイン着手 (会のメンバー)			
	2 23	まち歩きマップ委員会：ミーティング	6		
		ゴール地点の満願寺へドラフトのデザインチェックとミーティング	4		
	3 25	まち歩きマップ完成			

<b>事業効果</b>	<p>自分事化することで、市の文化・歴史にふれていただくまち歩きを通じて市の第五次総合戦略の「重点戦略4 愛着のもてるまちづくり」の達成の一助として期待できる事業。 また市外から訪れた方へは川西市の魅力を発信し交流人口を増やし地域の活性化へ寄与を期待できるものとなった。</p>
<b>課題及び今後の展望</b>	<p>資金面のやりくりが課題。継続して歩きマップを手にとっていただくには、マップの増刷が必須だがその資金について補助金があるとその費用を賄うことが可能だが、補助金を受けない場合のめどがたっていない点が課題。今後の展望は、企業や大学の協力を得ながらまち歩きマップ事業を行政や観光協会などで引き継いでいただくことの検討など含め本市独自のストーリーを周知できるツールとして活用をいただきたい。</p>

## (活動状況写真)



22/09/20 読売新聞より取材時



23/02/23 マップゴールの満願寺ご住職と打ち合わせ

団体名	まちの宝物サポート隊
-----	------------

団体設立	西暦 2020 年 10 月 1 日
------	--------------------

活動分野	文化・歴史軸の観光
------	-----------

設立目的	・一般社団法人 構想日本が携わった 2019 年の川西市の市民会議の総合戦略の策定の場で案となった「まちの宝物サポート隊」を、当時の参加メンバーの有志で結成。「自分ごと化」で文化・歴史を軸に行政の手の届かない部分を市民の立場でサポートすることや、川西市の文化・歴史の「宝物」を活用する提案を市に行う。
------	--

事業名		( 妊産婦の不安と孤立感の解消を目指した「継続ケア」普及啓発事業 )			
団体名	マザーツリー	代表	古宇田 千恵		
協働団体	なし				
活動地域	川西市・猪名川町				
事業の目的・趣旨	<p>少子化・核家族化・地域コミュニティの希薄化を背景に、妊産婦は不安と孤立感を抱えている中、新型コロナウイルス感染症の流行がさらにその拍車をかけている。川西市内の 3 施設の総合病院のうち一つが令和 3 年 3 月に産科診療を閉鎖し、本年秋には残りの 2 施設が合併することで分娩可能な総合病院が市内に 1 施設となり、川西市をはじめとする近隣市町の住民は不安を強めている。一方で、川西市には、世界保健機関が「ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」(WHO 2018)として推奨する「継続ケア」を実践する、妊娠初期から出産・産後にかけて継続的に寄り添うかかりつけの助産師がいる。にもかかわらず、その存在とメリットは地域の妊産婦にほとんど知られていない。当団体は、自分たちが継続ケアを受けた体験をもとに、継続ケアを提供する助産師の存在とそのメリットを地域住民に楽しくわかりやすく伝えることで、妊産婦が継続ケアを受ける機会を増やし、妊産婦の不安と孤立感を解消し、安心して子どもを産み育てる地域づくりに資することを目的とする。</p> <p style="text-align: right;">WHO(2018)『WHO 推奨: ポジティブな出産体験のための分娩期ケア』</p>				
事業内容	<p>イベント(「バース・フェスタ」)の開催  開催日時: 令和4年11月27日(日)10:00~16:00  開催場所: 藤ノ木さんかく広場(川西市中央町 3-14)  内 容: 助産師による継続ケアについての講演、継続ケアを受けた母親による出産体験談  助産師による相談コーナー、作業療法士による発達相談コーナー、縁日コーナー  ライブパフォーマンス、雑貨や飲食物のマーケットなどを体験する機会を提供することで、助産師による継続ケアの存在とメリットを楽しくわかりやすく伝える。  参 加 者: 妊娠を予定している人、妊婦とその家族、子育て支援者、  妊娠・出産に関心のある人など約 300 名  参 加 費: 無料</p>				
事業スケジュール	実施日 (年-月-日)		事業概要	参加人数 (人)	
				スタッフ	一般参加者
	4	7	4	委員会オンライン会議: 開催概要の協議	
	4	7	11	委員会オンライン会議: イベント内容の協議	
	4	7	12	マーケット出店者・助産師への協力依頼	
	4	7	13	ライブパフォーマンス出演者への協力依頼	
	4	7	14	デザイナーへのチラシ作成依頼	
	4	7	27	デザイナーとの打合せ	
	4	9	12	委員会オンライン会議: イベント内容詳細協議	
	4	9	20	委員会オンライン会議: 役割分担の協議	
4	9	26	委員会オンライン会議: 出産体験談の内容確認 会場変更の決定		
4	10	3	オンライン会議: 助産師との詳細協議		

	4	10	11	チラシ印刷発注、SNSによる広報開始	2	300	
	4	10	18	チラシ納品確認	1		
	4	10	18	チラシ配布(~27日)	7		
	4	10	24	委員会オンライン会議:当日の手順確認	5		
	4	10	31	委員会オンライン会議:当日の役割確認	7		
	4	11	14	出店者・出演者・助産師への確認	7		
	4	11	21	委員会:当日の開催体制の確認	5		
	4	11	26	会場設営などの開催準備	7		
	4	11	27	バースフェスタ開催	9		
	4	12	5	委員会オンライン会議:参加者の感想報告	5		
	4	12	12	委員会オンライン会議:出店者・出演者感想報告	5		
	4	12	19	委員会オンライン会議:助産師感想報告	5		
	4	12	26	委員会オンライン会議:反省会	5		
	5	1	8	実績報告書作成	1		
			~16				
<b>事業効果</b>	<p>イベント当日には、約 300 名と多くの参加をいただいた。来場者のほとんどが赤ちゃんや小さいお子さんを連れた親子であった。アンケートでは「楽しかった。子供が遊べる縁日や、キッチンカーもどれも美味しく、定期的に開催してほしいと感じました。」「講演や出産体験談を聴いて、継続ケアの経験が素敵な経験になったんだなあと感じました。継続ケアを受ければマタニティブルーや産後うつの問題がかなり少なくなっていると思う。」という回答を得た。川西市長の越田謙治郎氏が視察にいられたので、ステージにあがっていただき、イベントの趣旨などを聴いていただいた。</p> <p>「継続ケアを提供する助産師の存在とそのメリットを地域住民に楽しくわかりやすく伝える」という目的を達成できたと思う。</p>						
<b>課題及び今後の展望</b>	<p>川西市内の産婦人科医院の医師がイベントのチラシを見て、「お母さんたちが頑張っているんだから応援したい。市内の医療機関が協賛して毎年開催したらよいのではないか。」と関心を示してくださった。今後は自立的な運営体制に向けて、市内の医療機関への資金面での支援拡充を図っていきたい。</p> <p>さらに地域での浸透を目指し、関連諸機関との連携を深め、広報に努めていく。</p>						

(活動状況写真)



助産師による継続ケアについての講演



継続ケアを受けた母親による出産体験談





助産師による相談コーナー



ライブパフォーマンス



縁日コーナー



雑貨販売ブース

団体名 マザーツリー

団体設立 西暦 2019 年 10 月 18 日

活動分野 子育て支援

設立目的 かかりつけ助産師による妊娠初期から出産・産後にかけての継続ケアの大切さを楽しくわかりやすく伝えることにより、妊産婦が継続ケアを受ける機会を増やし、妊産婦の不安と孤立感を解消し、安心して子どもを産み育てる地域づくりに資することを目的とする。

**事業名** ( 空き家・空き地の未然対策による持続可能なまちづくり事業 )

<b>団体名</b>	一般社団法人地方創生パートナーズ	<b>代表</b>	代表理事 三坂友章			
<b>協働団体</b>						
<b>活動地域</b>	宝塚市					
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>少子高齢化に伴う人口の減少が進む中で、空き家・空き地等の管理や処分を検討する人が増加することが見込まれる。こうした空き家・空き地に関わる様々な課題をその所有者だけの問題としてではなく地域全体の問題として捉え、空き家・空き地等の適切な管理の普及活動を行うことで持続可能なまちづくりへと繋がる活動をするを目的とする。</p>					
<b>事業内容</b>	<p><b>①まちづくり出前講座（セミナー・座談会を含む）</b>          空き家・空き地等の管理や処分に関心のある自治会や市民等に対し、司法書士、行政書士、土地家屋調査士等の法律の専門家や不動産の実務に携わるメンバーが空き家・空き地の未然対策、早期に空き家の適性管理を行う必要性について出張形式で講座をおこなう。</p> <p><b>②個別相談会</b>          空き家・空き地等の管理や処分に関心のある自治会や市民等に対し、司法書士、行政書士、土地家屋調査士等の法律の専門家や不動産の実務に携わるメンバーが空き家・空き地の未然対策、適正な管理方法について、また当事者が現状抱えている問題を相談できる場所として個別形式の相談会を開催。</p> <p><b>③空き家・空き地対策ネットワークの構築</b>          行政、自治会、社会福祉協議会等とのネットワークを構築。          法務局等との関係構築。</p> <p><b>④ホームページ、SNS 等による情報の提供</b>          空き家・空き地に関する最新の情報や、役立つ情報をオンラインで発信することにより、より広範囲の啓発活動。</p>					
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日（年-月-日）</b>		<b>事業概要</b>		<b>参加人数（人）</b>	
					<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	令和 4年	10 1	まちづくり座談会 ・空き家の未然対策について		4人	2人
5年	2 18	法務局講師による「相続・空き家対策セミナー」 ①法務局の新しい制度について ・相続土地国庫帰属法 ・相続登記義務化 ②自筆証書遺言書保管制度 ③空き家対策のポイントは？		7人 法務局 4人	25人	



<p><b>事業効果</b></p>	<p>セミナー回数は、予定より少なかったものの全国に先駆けて、所有者不明土地（空き家対策）を行うための新しい制度①相続土地国庫帰属制度、②相続登記義務化、③自筆証書遺言書保管制度についてのセミナーを法務局といっしょに行うことができた。</p> <p>また、セミナー後援には、兵庫県阪神北県民局をはじめ、神戸地方法務局、宝塚市、NHK神戸放送局。宝塚市社会福祉協議会とネットワーク構築ができた。</p> <p>市民に対しては、空き家、空き地対策へのヒントを提供できたものと思う。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>今回、セミナーアンケートを行った結果、新しい制度ができたものの市民に周知できているとはいえなかったが、セミナーを行うことにより関心度が高まるという結果がでた。</p> <p>空き家、空き地対策は本人だけでなく、地域の課題であり、このセミナーを行うことで地域の課題解決につながっていくことがわかった。</p> <p>今後、兵庫県阪神北県民局の他団体でも同様にセミナー等を行うことで、空き家、空き地の解消につなげていきたい。</p>

(活動状況写真)



**団体名** 一般社団法人地方創生パートナーズ

**団体設立** 西暦 2020 年 6 月 1 日

**活動分野** まちづくり

**設立目的**

国、自治体、事業者及び NPO 法人等各種団体との連携・協力により、空き家・空き地対策等まちづくりの相談・支援をすることにより、まちづくりの推進を図ることを目的とする。

**事業名** (子育てに優しい街宝塚プロジェクト)

<b>団体名</b>	なないろまっぷ		<b>代表</b>	藤原 樹里			
<b>協働団体</b>							
<b>活動地域</b>	宝塚市						
<b>事業の目的・趣旨</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝塚市をもっと子育てしやすい街にしたいという思いから立ち上げた</li> <li>・現在宝塚市で配布されている「たからばこ」が十分にママ達に活用されていないのではないか？その理由の一つに、「文字ばかりでわかりづらい」という子育て世代の声がある。</li> <li>そのため、今回作成する子育て応援情報 MAP では、写真や絵をメインにし、視覚から見てもらえるような冊子にしたい。</li> <li>・ママ目線で妊娠・出産・育児に必要な情報発信を含めた子育て MAP を作成する</li> </ul>						
<b>事業内容</b>	<p><b>【子育て応援情報 MAP の作成】</b></p> <p>子育て応援情報は、宝塚市在住のママ・パパから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども連れでも行きやすい施設、カフェ、お店</li> <li>・おすすめの公園</li> <li>・子育てサークル・サロン</li> <li>・病院 etc</li> </ul> <p>行って良かった、利用して良かった、お勧めの理由や子育てに優しい理由を添えて募集しまとめる。子育て中のママ・パパ目線で作り上げる事で、欲しい情報が詰まった冊子になる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援情報 MAP お披露目会開催</li> </ul> <p>開催日時：令和4年12月3日(土曜日) 11:00~15:00  開催場所：宝塚市立文化芸術センター キューブホール・アトリエ・おおやね広場  内容：作成した子育て応援情報 MAP のお披露目会、配布、子育てイベント  参加者：一般の子育て市民 延べ100名程度</p>						
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日(年-月-日)</b>			<b>事業概要</b>		<b>参加人数(人)</b>	
						<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	2022	5	13	プロジェクト会議①：子育てMAPに載せる情報収集			
	2022	6	10	プロジェクト会議②：集めた情報まとめ・意見交換	10		
	2022	6	28	プロジェクト会議③：MAP作成にあたり打ち合わせ	5		
	2022	7	1	MAP製作開始	4		
	2022	7	28	プロジェクト会議④：MAPのデザイン・構成について打ち合わせ	4		
	2022	9	1	MAP進捗状況確認			
		9	27	お披露目会(なないろフェス)プレゼント製作	3		
	2022	10	13	MAPデザイン・内容・構成打ち合わせ・作成作業実施	6		
	2022	11	11	FM宝塚「おやこですくすく」出演：お披露目会広報	3		
	2022	11	20	MAP製本	1		
		11	25	プロジェクト会議⑤：お披露目会(なないろフェス)打ち合わせ	10		
		11	29	MAP完成			
		11	30	プロジェクト会議⑥：お披露目会(なないろフェス)準備	5		
		12	3	お披露目会(なないろフェス)開催 @宝塚市文化芸術センター キューブホール・アトリエ・おおやね広場	10		443
	12	15	プロジェクト会議⑦：お披露目会開催実施報告・反省会	5			
	12	20	実績報告書作成	2			
		30	実績報告書修正・完成	2			

<p><b>事業効果</b></p>	<p>お披露目会には延べ 443 名の親子の参加があり大盛況であった。作成した子育て MAP も 250 部程配布することができた。なないろまっぷを手にとったママ達からは「絵が可愛くて見やすい」「知らない地域の情報もたくさんあって行ってみたいと思った」「情報量たっぷりで見ている楽しい」などのお声も頂き、とても喜んでもらえた実感することができた。</p> <p>また、MAP お披露目会と同時に開催したなないろフェスでは、宝塚市内で活躍中のママを中心にブース出展をしてもらうことで地域とのつながりをもつことや、社会からの孤立を防ぐという目的も達成したと感じた。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>今回作成した子育て MAP をより多くの子育てママに届けるために、宝塚市内の施設やお店、子育て広場へ置かせてもらえないか交渉していく必要がある。</p> <p>また、ママの声を参考に、来年度に向けてよりアップグレードした第 2 版を作成できるよう、MAP の更新を行っていく。</p>

(活動状況写真)



子育て応援情報 MAP  
なないろまっぷ



FM 宝塚「おやこですくすく」出演



なないろフェス  
in キューブホール



なないろフェス  
ベビーマッサージ体験会

団体名 なないろまっぷ

団体設立 西暦 2022 年 4 月 1 日

活動分野 まちづくり、子どもの健全育成

設立目的 宝塚市をもっと子育てしやすい街にしたいという思いで立ち上げた子育てママの団体です。子育て世代に活気があると、地域の活性化に繋がり、宝塚市の良さをたくさんの人に伝え、子育てしやすい街づくりを目指しています

<b>事業名</b>	( あわてんぼうのクリスマス★ナイト 2022 )
------------	---------------------------

<b>団体名</b>	NPO法人いながわリンク	<b>代表</b>	田尻 紗津
<b>協働団体</b>	猪名川町(後援)、猪名川町教育委員会(後援)、つつじがおか食堂(協力)		
<b>活動地域</b>	猪名川町とその周辺地域		
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>猪名川町内では、4月にいながわ桜まつりライトアップ、6月に竹キャンドルナイト、8月に天然のイルミネーション星まつり等があるが、冬場は寒さが厳しくなり人が出にくくなるため、イベントも少なく交流も減る。</p> <p>冬場の楽しみと地域の交流の為に住民有志で2014~2015年に催された(会場:猪名川町総合公園)が、金銭工面や会場の使用条件などで終了。その後、2016~2018年に町役場主催で開催した(会場:大野山)が、2019年の継続はしない事が決定。</p> <p>しかし、イルミネーション資材が住民からの寄附であり無駄にしないで欲しいという声を受けて2019年場所を変えて開催した(会場:日生中央サピエ)。2020年からは、そういった過去のイルミネーションイベントの経緯もふまえて、町の既存イベントなどとも結びつけることで、四季を通して「灯りでつなぐ猪名川町」として、活性していくことを目的としている。</p>		
<b>事業内容</b>	<p>天候不良の為、中止も検討されたが、これまでの実績やつながりにより内容を変更して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時: 2022年12月17日(土)9:00~18:00</li> <li>・会場: 能勢電鉄「日生中央駅」駅前日生中央サピエ内空き店舗</li> <li>・来場者: 約300人</li> <li>・イルミネーション: 約5,000球</li> <li>・ワークショップ: クリスマスモニュメント作成</li> <li>・出演(音楽): 2団体</li> <li>・出店(展示・飲食・体験): 5店舗</li> <li>・その他: 他イベントとのコラボ</li> </ul>		
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日(年-月-日)</b>	<b>事業概要</b>	<b>参加人数(人)</b>
			<b>スタッフ</b> <b>一般参加者</b>
	22    6    1~当日	継続的に実行委員会ミーティングを実施 (イベント概要・スケジュール・担当割り)	4
	22    10   1~当日	協賛金協力廻り・出店・出演依頼	4
	22    10   1~当日	実行委員会ミーティング(途中経過確認調整)	24
	22    11   1~当日	イベント備品確認、シミュレーション	4
	22    12   1~当日	ボランティア含め、イベント詳細確認	24
	22    12   17	屋内設営・開催・撤去	24
	23    1    21	あわてんぼうのクリスマス振り返り会	24
			300

<p><b>事業効果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、野外イベントがメインであったため、当日が雨となり野外を中止せざるを得ない状態であったが、出演者はもちろん、出演者の保護者、ボランティア、直接的には事業に関わっていない方からも出会う度に「見たかった」「残念」「毎年楽しみにしていた」など継続してきた成果を実感できることができた。</li> <li>・今回もコロナ禍であり、また天候にも恵まれませんでした。規模を縮小しつつも開催したことで「年末の癒し」「開催してくれるだけで感謝」という声を聞き、上記と同じく継続していることによる効果を実感できた。</li> <li>・当初の計画で屋内も利用予定であったが、商業施設との兼ね合いで使用できなかったため、屋外のみを開始予定としていた。しかし、直前に雨のため中止を検討していると会場を貸していただく施設に申し出たところ、当初屋内で他のイベントがあり使用不可だったのにも関わらず、調整をして一部のスペースを確保していただき、規模は縮小したが開催することができた。これは本事業が継続して成果を上げてきたことを実感した。</li> <li>・今年度から町内で初めてスタートした子ども食堂との連携ができた。具体的には、子ども食堂の一環で行ったワークショップ「クリスマスモニュメント作り」に、当法人が参画しワークショップを行い、その成果物を本事業に飾ることで、関わった子ども達をはじめ、そのご家庭の方にも喜んでいただくことができた。</li> <li>・若い層のスタッフの活躍。小学生から高校生、大学生まで幅広い若い層に本事業に参画してもらうことができた。本事業の話し合いから参加してもらったことで、準備の段取りから当日の設営運営片付けまで率先して行動してもらうことができた。若者の活躍が、その場のエネルギーに代わり場がとても活気づいた。</li> </ul>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の対応がギリギリになってしまい出演者を待たせてしまう状態になってしまった。今後は、初めから基準を設けて進めていく。</li> <li>・告知のスケジュールがうまく立てられず、追加のチラシを何度も制作することになったので同種のチラシは一度の制作で済むように計画を立てていく。</li> <li>・自主事業に向けての資金面で目途が立っていない。協力企業さんや寄付金を募る方法を検討していく。</li> </ul>

(活動状況写真)



団体名

NPO法人いながわリンク

団体設立

西暦 2019年 9月 1日

活動分野

まちづくり、社会教育、芸術文化・歴史、子ども育成、経済活性

設立目的

猪名川町内で「つくる・つなぐ・つどう」をテーマに活動。たくさんの人と一緒にこのまちのことを考えて、たくさんの人と一緒にこのまちを楽しみたいという有志が集まっています。地域の可能性を見出せるようなミーティングや、笑顔になれるイベントを行いながら活性と交流(地域・世代)を目指しています。

事業名		( 第 4 7 回三田市合唱祭 )				
団体名	三田市合唱連盟	代表	福澤ちづ子			
協働団体						
活動地域	三田市とその隣接地域					
事業の目的・趣旨	三田市合唱連盟加盟の団体と一般公募の合唱団体が日ごろの練習の成果を発表しあうとともに、広く一般県民の皆様に参加をいただき、生活文化の振興に寄与する。					
事業内容	<p>三田市合唱連盟加盟団体及び一般公募団体による個別の合唱演奏会。 (入場無料)</p> <p>コロナ禍で練習の休止などに追い込まれた合唱文化の存続のために、それぞれの団が練習を続ける目標ともなる合唱祭を開催する。 また、三田市内だけでなく、範囲を広げて出演団体を公募することで、より幅広い団体間の交流を持てる機会を創出する。</p>					
事業スケジュール	実施日 (年-月-日)		事業概要		参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
	5	10	第一回合唱祭準備会議		8	
	6	3	第二回合唱祭準備会議		8	
	7	4	第三回合唱祭準備会議		7	
	8	19	第 1 回合唱祭実行委員会 (団体顔合わせ)		17	4
	9	16	第 2 回合唱祭実行委員会 (演奏順決め)		16	5
	10	3	第 3 回合唱祭実行委員会 (役割分担)		16	4
	10	17	合唱祭実行委員会作業部会		5	
	10	24	第 4 回合唱祭実行委員会 (役割ごと作業確認)		20	
11	6	第 47 回三田市合唱祭 全出演者 354 名 一般観客数 331 名		295	59 331	



<p><b>事業効果</b></p>	<p>今回、出演団体公募の範囲も広げようということで、西宮市内から初めて2団体の申し込みがあった。また三田市内からも、練習が継続できず一旦は合唱連盟を脱退した団体からも合唱祭が開催されるのなら、と練習を再開し、参加してもらうことができた。また準備を行う実行委員会に全出演団体から参加をしてもらい、合唱祭を一緒に作っていく中で、合唱団間の交流、情報交換もできた。合唱祭当日にはそれぞれ運営の役割も担い、滞りなく開催。331名の一般観客が入場した。</p> <p>やはり年に一度の合唱祭を開催することは、人数が少なくなったり高齢化となった合唱団にとって、唯一の他の合唱団との交流の場であり、演奏会開催予定のない団体も練習の継続、上達に向けての意欲が湧き、各団員たちのモチベーションも向上するということを再確認した。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>今回は予算的にどのように開催できるかが大きな問題であり、新しい企画を盛り込んだ計画を練るには時間が足りなかった。しかし、助成金をいただくことが決まり、従来までの参加費に抑えることができ、参加を躊躇う合唱団にも参加してもらうことができた。今後、来年度の合唱祭についてアイデアを出し合い、予算面も合わせて早くから計画をしていきたい。さらに合唱団同士の情報交換、交流のできる場だけでなく、一般観客の方が各合唱団と交流を持てる場となるようにしていきたい。</p>

(活動状況写真) 募集チラシ、当日のプログラムなど別途添付。



団体名 三田市合唱連盟

団体設立 西暦1975年 4 月 1 日

活動分野 芸術・文化

設立目的 合唱を通じて相互の連携を図り、音楽性の向上に努め、市民文化の向上に寄与するのを目的に設立。合唱祭の開催、三田市音楽協会の活動への協力、三田市の文化事業への参加、合唱音楽に関する講習会、研修会等の開催などをその事業とする。

<b>事業名</b>	( ママと子どもが笑う子育て応援事業 )
------------	----------------------

<b>団体名</b>	サークルささるんと	<b>代表</b>	松井 由子
<b>協働団体</b>			
<b>活動地域</b>	川西市、能勢町		
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>コロナ禍で子どもたちの遊び場が減り、親子ともに新しい友達を作りにくいことや人との関係が希薄になっている現状がある。</p> <p>子育て世代の親子や新米ママさんが孤立してしまう状況を作らないように、子どもたちが子どもらしく育つことができる場所であることを目標に活動をしている。不登園や不登校の子どもが笑顔で過ごせる場所でもありたい。</p>		
<b>事業内容</b>	<p>地域の子どもや親に対し、自然を感じながら安心して遊べる場所を提供する。</p> <p>子どもは子どもや家族以外の大人、他世代との交流を、親は大人同士、子育ての悩みや情報交換をして笑顔で家に帰ってもらう。</p> <p>自然あふれる環境でめいっぱい走り回りまわる 親もスマホを見るのではなく、わが子や、わが子以外の子も見合いながらのんびり過ごす時間を提供する。</p> <p>散歩、いもほり、お絵かき教室、味噌づくり、お味噌汁作り、絵本の読み聞かせ パネルシアター、焼き芋（落ち葉集めるところから）、ピザ窯でピザ、なつまつり クリスマス会、ウクレレ演奏会など</p>		
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日（年-月-日）</b>	<b>事業概要</b>	<b>参加人数（人）</b>
			<b>スタッフ</b> <b>一般参加者</b>
	2022 5 12	味噌仕込み	1    7
	5 24	ウクレレとうたう	1    5
	6 5	じゃが芋ほり（すみれファーム）	1    37
	6 23	散歩	1    9
	7 28	川遊び（国崎せせらぎ広場）	2    10
	8 2	あおぞらおえかき教室	2    30
	8 25	夏まつり 子ども縁日	5    32
	9 13	お月見団子	1    15
	9 22	ごはんとお味噌汁でいただきます	1    13
	10 9	サツマイモほり（すみれファーム）	1    46
	10 27	焼き芋	1    17
	11 6	ピザ窯でピザの会	1    33
	11 8	遠足	1    4
	11 24	どうぞの会	1    18
	12 13	フラ体験	1    9
	12 22	クリスマス会 英語絵本読み聞かせ	1    18
	2023 1 12	たこあげと焼餅	1    8
	1 24	お味噌汁作り	1    4
	2 9	味噌の仕込み	2    7

		2	21	散歩と消防署見学	1	8
		3	7	味噌開きとお味噌汁作り	1	10
		3	23	子どもが主役のお味噌汁作り	2	14
		3	24	スタッフミーティング	4	0
		3	25	マジックショー	1	72

<p><b>事業効果</b></p>	<p>助成金申請時、11 家族だったサークル参加者が 1 年間で 27 家族に増えました。参加者には自然を感じながら、一緒に子育てするという仲間を作ってもらえたと思います。大人だけの参加（子どもは学校など）もあり、子どもを見合いながらいつも子どもに手がかかっているママの安らげる場所にもなっていると思います。参加者の得意なことを持ち寄ってもらうことで活動の幅が広がっています（ウクレレ演奏、味噌づくり、お団子作り、パネルシアターなど）。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>ママたちが過ごしやすい、安心できる居場所を目指した 1 年でしたが、コロナ禍に伴い学校や、園になじめず不登校や不登園が増えている現状も耳に入ってきました。ママたちだけでなく、子どもたちのやりたいを叶えられる場所でありたいとも感じました。参加者がイベント時に集中する傾向があるので、安心できる場所であることを、もう少し発信していきたいと感じております。</p>

(活動状況写真)

Instagram : @sasarunoto にて活動報告と開催告知など行っております (別紙)

抜粋 ↓ ↓

10月9日 サツマイモ掘りとお味噌汁作り @すみれファーム



10月27日 やきいも



団体名 サークルささると

団体設立 西暦 2021 年 10 月 21 日

活動分野 子どもの健全育成

設立目的 コロナ禍で親子ともに出かけられる場所が減り、人と人の関係が希薄になる中で子育て世帯（特に新米ママ）が孤立する状況を見て、親は不安や情報を共有し、子どもは子どもらしくのびのびと過ごせる場所を作りたいと立ち上げた。

**事業名** ( STOP! THE 介護離職 )

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人アイリス	<b>代表</b>	合田 真弓			
<b>協働団体</b>						
<b>活動地域</b>	伊丹市					
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>私たちは「介護離職をなくす」という理念のもと日々活動を行っています。介護者が社会から孤立し、一人で抱え込むことのないよう、仕事と介護の両立をできる社会・地域で支え合える社会を実現することを目的としています。</p> <p>今後は、一層の増加が予想される介護離職者に対して、伊丹市から地域社会と連携し、介護や認知症への理解を深める機会を設けるとともに、介護離職を防止するためのコミュニティの場づくりや、介護者一人一人に寄り添った相談業務や介護への備えの大切さを伝えていきます。</p>					
<b>事業内容</b>	<p>令和4年度は、介護や認知症に対する理解を深める機会と地域のつながりづくりのきっかけになる場を提供するため、プロの落語家笑福亭智丸氏を昨年度に引き続き呼び寄せて、想いを伝えることの大切さなどを落語を通じてお話いただきました。また、地域のボランティア落語家の虎乃家光甲さんとのトークタイムでも介護の経験などをお話いただきました。</p> <p>伊丹市・宝塚市や川西市のボランティア活動や市民活動をされている方を中心に、障がい者の方など 28名とスタッフ7名計35名の参加でした。楽しい雰囲気で開催が一体となり、介護への意識を高めるとともに地域のつながりづくりのきっかけの場になりました。</p> <p>【落語でかいご】</p> <p>開催日時 令和4年12月4日(日) 14:30~16:00</p> <p>開催場所 いたみいきいきプラザ3階人材育成研修室</p> <p>内 容 落語家笑福亭智丸氏による落語会、介護福祉士でボランティア落語家の虎乃家光甲さんとのトーク、アイリス製作の伊丹市オリジナルのエンディングカード“想いを伝えるなないろカード”の紹介</p> <p>参加者 35名(地域住民の方々・ボランティアや市民活動をされている方)</p>					
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日(年-月-日)</b>		<b>事業概要</b>		<b>参加人数(人)</b>	
					<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	2022	6	1	笑福亭智丸氏のスケジュール確認	1	
	2022	6	10	笑福亭智丸氏と開催日を決定	1	
	2022	6	15	スタッフミーティング(zoom)	5	
	2022	6	16	会場予約するが空きなし(スワンホール)	2	
	2022	7	1	いきいきプラザ仮予約	1	
	2022	9	1	いきいきプラザ正式予約	1	
	2022	10	13	チラシ作成	2	
	2022	10	20	チラシを市内公共施設へ配架依頼	3	
	2022	10	21	チラシ配布開始	5	
	2022	11	1	SNS・ホームページで広報開始	5	
	2022	11	20	司会進行役島崎氏と打合せ	3	
	2022	11	21	当日担当とタイムスケジュール確認	5	
	2022	11	25	笑福亭智丸氏と最終打合せ	3	
	2022	12	4	落語でかいご開催	7	28
	2022	12	4	反省会	5	
2022	12	20	開催結果・決算報告(zoom)	5		
2022	12	31	実績報告書作成	2		

<p><b>事業効果</b></p>	<p>本年は昨年開催したスワンホールが隣接しているアイ愛センター改修工事のため開催予定日に予約が満杯で会場探しに苦労したが日ごろ活動させていただいているいきいきプラザで開催することができた。昨年に引き続き参加された方や新たに参加して下さった方も交え会場が一体となり地域のつながりが更に広がったと感じられた。他市から参加された方は自分の地域でも開催したいと、落語を通じて介護に関心を持つきっかけづくりの場になった。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>落語家さんと会場のスケジュールを合わせることが大変だったのでもっと早くから準備をしなければならない。毎年開催してほしいとのお声が多数あり、継続して開催していくことで地域のつながりや支え合い、介護への備えの大切さを多世代に伝えていく。</p>

(活動状況写真)



団体名 特定非営利活動法人アイリス

団体設立 西暦 2019年 8月 21日

活動分野 保健・医療・福祉、まちづくり

設立目的 介護離職をなくすために介護への理解や備えの大切さを伝え、仕事と介護の両立を支援する活動を行う。



## 事業名 (三田高平、みんなで楽しく農業⇒里山保全風景)

団体名	特定非営利活動法人 里野山家 (さとのやまが)	代表	佐藤 秀一
協働団体			
活動地域	三田市酒井地区		
事業の 目的・趣旨	<p>都市住民の中には自分を初め、子どもたちに安心・安全で美味しい米や野菜を食べさせたいけれど、畑や田んぼがない、どのように作物を作ったらいいかわからないという親御さんが少なからず存在しています。</p> <p>一方、NPO 法人里野山家がある三田市高平地域は高齢化や農の働き手が少なくなって耕作放棄地が増えてくるという課題があります。</p> <p>NPO 法人里野山家ではこの状況を踏まえて、都市住民の方たちと高平に住む住民と一緒に、知恵と力を合わせて、耕作放棄地を活用して、米作りや野菜作りをすることで様々な地域から集まった人々、小さい子供からおじいちゃん、おばあちゃんまでの多年齢の人々の交流の場づくりを目的としながら、里山ならではの楽しい様々な活動(米作り、野菜づくり、自分たちで作った豆で味噌づくり、自分たちで作った麦を使ってピザづくりのためのピザ窯づくり、自分たちで作った藍で藍染めワークショップ、20人の人で作る醤油づくり)などの様々な活動を通じて、人と人が繋がる場づくりをしていく過程で結果として里山の風景保全に繋がる活動を持続的に展開していきます。</p>		
事業内容	<p>無農薬・有機栽培の米づくりの実践。          無農薬・有機栽培の野菜づくりの実践。          無農薬・無施肥の野菜づくりの実践。          森の中の腐葉土にくっついてる糸状菌を活用した菌ちゃん農法の野菜づくりの実践。          自家製豆を使った味噌づくりワークショップ。          自分たちで育てた藍を使った藍染めワークショップ。          自家製小麦と野菜を使ったピザづくりワークショップ。          里山の暮らし体験の様々なイベント。          米づくりから出る稲わらを使った注連縄づくりワークショップ。          里野山家の畑で飼育する蜜蜂の採蜜体験ワークショップ。          楽しい里山移住相談会。          などを開催して人々の交流の場をつくとともに、里山地域に触れる機会を多く設けて、出来れば関係人口を増やして、移住に繋がりました。</p>		

	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
	R4	5	3	田んぼと畑の水源地の畦倉池地区一斉清掃参加	10	
	R4	5	3	大山桜畑キャベツ、インゲンのお世話 溝の草刈り	11	
	R4	5	5	苺畑のある下里地区一斉清掃参加 苺畑の草刈	5	
	R4	5	7	藍畑草刈りと水やり 苺収穫、	12	2
	R4	5	10	さつま芋定植、田んぼ畦草刈り、	12	
	R4	5	14	醤油づくり 第6回醤油天地返し	3	16
	R4	5	14	糯米(ヤマフクモチ)の苗移動	10	
	R4	5	15	トラクター運転技術講習会(三菱農機 荒川さん)	1	14
	R4	5	15	田んぼ波板設置	17	
	R4	5	21	さつま芋(紅あずま)定植	5	1
	R4	5	22	田植え、ネット張り、ぼかし撒き	16	5
	R4	5	28	田んぼ田せり機かけ、草刈り	6	0
	R4	5	29	糯米田植え	12	1
	R4	5	29	田植え(ららら高平)学生体験	4	10
	R4	6	1	ビニールハウス内野菜苗開引き、水やり	5	
	R4	6	5	田んぼ田せり機、夏野菜定植、草刈り、水やり	12	
	R4	6	11	醤油づくり 第7回醤油天地返し	3	18
	R4	6	11	刈り払い機取り扱い安全講習会	1	8
	R4	6	11	保田ぼかし制作	2	8
	R4	6	12	高売布神社田んぼ黒豆種まき、きゅうり支柱づくり	17	0
	R4	6	19	じゃがいもの収穫、草刈り、田んぼ田せり機かけ	12	0
	R4	6	20	無農薬・無施肥農法勉強会(永井直美さん)	1	8
事業 スケジュール	R4	6	21	田せり機かけ	3	
	R4	6	22	田せり機かけ	3	
	R4	7	26	きゅうりネット張り、摘心、追肥	12	1
	R4	7	9	醤油づくり 第8回醤油天地返し	1	4
	R4	7	10	里芋の定植、田せり機かけ、草刈り	17	
	R4	7	17	無農薬・無施肥農法勉強会(永井直美さん)	1	7
	R4	7	17	高売布神社田んぼ波板設置、畔の草刈り、野菜収穫	6	
	R4	7	20	田んぼ草抜き	3	
	R4	7	22	田んぼ草抜き、野菜収穫	2	
	R4	7	23	田んぼ草抜き	2	
	R4	7	24	田んぼ草抜き、サツマイモツルの挿し芽、野菜収穫	12	
	R4	7	25	田んぼ草抜き	1	
	R4	7	26	田んぼ草抜き	2	
	R4	7	29	田んぼ草抜き	1	
	R4	7	31	苗床田んぼ草抜き、山羊さん畑草刈り、	8	
	R4	8	5	藍染ワークショップ	2	6
	R4	8	7	高売布神社田んぼ黒豆土寄せ	11	
	R4	8	7	無農薬・無施肥農法勉強会(永井直美さん)	1	8
	R4	8	20	醤油づくり 第九回天地返し	3	18
	R4	8	20	きゅうりの定植	4	
	R4	8	21	白菜、ブロッコリー種まき、大根畝作り、畝立て	8	
	R4	8	27	酒井地区一斉羽東川土手草刈り参加	4	
	R4	9	27	よりちゃん田んぼ畦草刈り	2	
	R4	9	28	大根直種まき、梅野木畑トラクター耕耘	7	
	R4	9	4	大根害虫ネット張り、白菜、ブロッコリー畝作り	10	
	R4	9	10	醤油づくり 第十回天地返し	3	8
	R4	9	11	午前中、菌ちゃん農法勉強会【西 朝雄さん】	1	17

R4	9	11	午後、前期の振り返りと後期を描く	17	
R4	9	17	稲木作り	14	
R4	9	25	無農薬・無施肥農法勉強会（永井直美さん）	1	9
R4	9	18	順ちゃん田んぼの稲刈り	8	
R4	10	25	午前、和子さん田んぼの稲刈り、大根間引き	15	
R4	10	25	午後、大根間引き、大根間引き、香底雑草刈り	9	
R4	10	2	うるち米、順子さん田んぼの脱穀	14	3
R4	10	3	よりちゃん田んぼ整すり、乾燥作業	7	
R4	10	3	大山桜畑、白菜、ブロッコリー定植	4	
R4	10	7	米の袋分け	5	
R4	10	8	醤油づくり 第十一回天地返し	2	6
R4	10	8	萋苗ポット移植、大根間引き、サツマ芋試し掘り	7	
R4	10	14	和子さん田んぼの脱穀、乾燥機に移動、チップー	8	
R4	10	16	乾燥稲穂整すり、さつま芋堀り、にんにく種定植	17	
R4	10	30	各田んぼの片付け、玉ねぎ畝作り、白菜等の追肥	13	
R4	10	31	籾摺り、乾燥小屋掃除	7	
R4	11	6	無農薬・無施肥農法勉強会（永井直美さん）	1	8
R4	11	6	里芋ん試し掘り、スナップエンドウの種まき	16	
R4	11	12	醤油づくり 第十二回天地返し	3	15
R5	11	12	玉ねぎ定植、大根収穫	12	
R5	11	13	上映会「種は誰のもの」、意見交換会	16	
R5	11	19	酒井地区羽東川河川敷き一斉草刈り参加	8	
R5	11	20	「さんだまち博」大根収穫、柿収穫、干し柿づくり	10	
R5	11	21	三田に合った米作り講習会（西村いつきさん）	5	2
R5	11	27	萋の定植、里芋の収穫、じゃがいも、落花生収穫	10	
R5	12	9	無農薬・無施肥農法勉強会（永井直美さん）	1	7
R5	12	4	スナップエンドウ畝立て、追肥、川の葦上げ	7	
R5	12	18	注連縄づくりワークショップ（西 悦男さん）	2	7
R5	12	10	醤油づくり 第十三回天地返し	3	15
R5	12	4	玉ねぎ追肥、にんにく除草	10	
R5	1	8	黒豆収穫	15	
R5	1	14	醤油づくり 醤油絞り	3	52
R5	1	15	萋ちゃん農法勉強会（西 朝雄さん）	1	16
R5	1	21	醤油づくり 醤油瓶詰め	3	15
R5	1	21	DVD「静かな汚染ニコチノイド」鑑賞、意見交換会	10	
R5	2	12	味噌づくりワークショップ（吉川由佳さん）	2	6
R5	2	12	スナップエンドウ支柱立て、冬野菜収穫	11	
R5	2	18	味噌づくりワークショップ（吉川由佳さん）	2	8
R5	2	18	和子さん田んぼ返却準備、草刈り	10	
R5	2	19	保田ぼかしづくり、萋ちゃん農法オンライン勉強会	11	12
R5	2	25	カンコメクラブへ勉強に行く	2	
R5	2	26	午前 萋ちゃん農法勉強会（西朝雄さん）	1	12
R5	2	26	午後 じゃがいもの畝作り、冬野菜収穫	12	
R5	3	5	萋ちゃん農法丸太畝づくり	12	
R5	3	11	醤油づくり 2023年度醤油仕込み	1	15
R5	3	12	玉ねぎ、にんにく追肥、	6	15
R5	3	14	醤油づくり 第一回天地返し	2	9
R5	3	18	醤油第二回天地返し	2	5
R5	3	19	午前 萋ちゃん農法勉強会	1	9
R5	3	21	無農薬・無施肥農法勉強会（永井直美さん）	1	8
R5	3	19	じゃがいもの植え付け、ヘアリーベッチ撒き	9	

	R5	3	25	醤油づくり 第三回天地返し	2	12
	R5	3	26	うるち米種別選別、温湯消毒、保田ぼかしづくり	9	



<b>事業効果</b>	耕作放棄地を活用して、いろんなところから集まって来て、みんなで一緒にやる野菜づくりや米作りの楽しさを味わって、仲良しが一層進んだ。 個人の子どもというよりはみんなで育てる社会の子どもという風に、多くの大人に見守られて育てている。 森の腐葉土や糸状菌を活用した農法を新しく勉強し始め、みんなはとても興味深く勉強し始めている。
<b>課題及び今後の展望</b>	里野山家の会員さんに限った活動が多くなってしまい、もう少し、一般の人が参加出来る機会を作っていく必要がある。 ホームページをもっと充実していく。 学生へのアピールをもっと多くしていく。

(活動状況写真)

5月3日 地区一斉清掃に参加



5月5日 地区一斉清掃除に参加



大学生の田植え実習



里野山家の農ガール





地区一斉羽束川河川敷草刈り参加



醤油絞り

ふるさと楽農部 皆で昼ごはん



醤油仕込み



菌ちゃん農法勉強会



うるち米種選別、温湯消毒



団体名 特定非営利活動法人 里野山家

団体設立 2016年1月16日

活動分野 環境、教育、地域づくり

設立目的 当 NPO は、三田市高平地域における「里地里山生活」を広く情報発信し、少子高齢化、里山荒廃、耕作放棄地増加など日本の農山村の共通課題を多少なりとも解消できればという目的で設立しました。



<b>事業名</b>	( 地域ゆかりの能《鼓の瀧》復元プロジェクト )
------------	--------------------------

<b>団体名</b>	能楽と郷土を知る会	<b>代表</b>	朝原 広基
<b>協働団体</b>			
<b>活動地域</b>	三田市		
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>弊会は地域に伝わる能楽の記録や記憶を掘り起こし、地域の歴史と一体として広めることを目的として、活動を行ってきた。2020年には、当事業の助成も受けて、三田市桑原に伝わる雷の民話を元とした新作狂言《くわばら》を制作・初演を行い、翌年夏には、地域の子どもたちへの指導が開始、子どもたちによる上演も行われた。</p> <p>今回は地域ゆかりの狂言に続き、地域ゆかりの能の制作を企画。今回は新作ではなく、能楽の大成者・世阿弥自身も謡った記録のある、幻の曲《鼓の瀧》の復曲（復活）を目指す。《鼓の瀧》は、現在判明する限り、三田市を含む旧摂津国有馬郡を舞台とする唯一の能である。まずはこの能を現代の能楽師により上演できる状態にまで整える。将来的には、機会を得て上演を企画するほか、《くわばら》同様に、地域の子供たちへの指導および上演も目指す。</p>		
<b>事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地の大学図書館、研究施設に所蔵されている《鼓の瀧》の古謡本を調査、研究、校合を行った。</li> <li>・その成果をもとに、上演用の謡本（台本）を作成した。</li> <li>・可能な限り、現代に残されている資料に従った形での復元を行ったが、資料が存在しない部分や、現代に上演するには問題がある部分は、現代の能楽師とともに、伝統を踏まえた上で、新たに創作した。</li> <li>・謡本の制作には、能楽師、大学の専門研究者なども参加した。</li> <li>・制作された台本（謡本）を制作し、過程などを文章化して記録に残した。これにより、上演の機会を得れば上演できる状態となった。また資料として、将来に残す意味もある。</li> <li>・成果を資料としてまとめるだけでなく、地域で講座を開催し、成果の披露の場とした。</li> <li>・復元上演に向けた資金集めと告知を兼ねて、成果報告をしつつクラウドファンディングを開催した。</li> </ul>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
事業 スケジュール	R4	5	14	月例会開始	4	
	"	6	18	月例研究会	2	
	"	7	16	月例研究会	4	
	"	8	4	特別研究会@東京・アルカディア市ヶ谷	4	
	"	"	11	月例研究会@大阪・大槻能楽堂	3	
	"	9	15	月例研究会・編集会議	4	
	"	10	9	月例研究会・編集会議	4	
	"	"	"	講座@三田市総合文化センター	2	15
	"	"	29	講座@三田市フラワータウン市民センター	2	10
	"	11	4	月例研究会・編集会議	4	
	"	"	19	パンフレット・台本完成・臨時研究会	4	
	"	12	20	月例研究会	4	
	R5	1	15	月例研究会・反省会	4	

<p><b>事業効果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統文化への関心を高めた。</li> <li>・ 神戸三田地域（旧有馬郡）が伝統文化ゆかりの地であることを広められた。</li> <li>・ 世阿弥ゆかりの能が存在することを知らしめ、上演できる状態にまで完成させた。</li> <li>・ 地域ゆかりの物語を、舞台として体感することで、地域の歴史・民話に興味をかきたてた。</li> <li>・ 他地域からの流入者が多い神戸三田地域において、伝統文化を体感することで地域の歴史に関心を持ち、地域への愛着心を持つきっかけとなった。</li> <li>・ 子どもたちへの指導を行い、ゆくゆくは地域の子供たちによる上演を行う準備ができた。</li> </ul>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能としての復元は完了したが、より上演しやすい略式演奏の形を作り、地域の住民、特に子どもたちに指導し、市内の各地で上演する機会を作り、地域での伝承を続けていく必要がある。</li> <li>・ ほかにより地域に密着した能・狂言の演目を制作し、上演する形をとりたい。</li> </ul>

(活動状況写真)



R4. 8. 4 特別研究会@東京・アルカディア市ヶ谷  
右から山階彌右衛門氏・山中雅志氏・西野春雄氏・朝原



R4. 10. 9 編集会議

R4. 10. 29 事前講座  
@三田市フラワータウン市民センター



団体名 能楽と郷土を知る会

団体設立 西暦 2016 年 3 月 20 日

活動分野 芸術文化・歴史

設立目的 能楽とは、日本文化の大きな集大成の一つですが、決して現在、一般的とは言いつらい位置にあります。また、能楽の日本文化としての普遍性とは別に、各地域に根差して存在したこともまたあまり知られていません。この現状を、少しでも打開したいと願い、活動を開始しました。我々は、それぞれの地域に伝える、能楽の記録や記憶を掘り起こし、地域の歴史意識と一体にして広めることを活動目的とします。

**事業名** ( 畑でおいしくたのしくつながるめぐるぐるプロジェクト )

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 縁農ネット			<b>代表</b>	高寺 寿一	
<b>協働団体</b>						
<b>活動地域</b>	兵庫県三田市					
<b>事業の目的・趣旨</b>	都市農地を「地域に根差した体験の場」として活用し、種まきから収穫、そして加工までを体感する機会を通じて、畑と食卓をつなぐ食農教育活動を行います。 また、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流するなど、「食」、「農」、「人」のつながりから生まれる好循環により、生涯にわたる豊かなこころと健やかなからだづくりを目指します。					
<b>事業内容</b>	<p>畑でおいしくたのしくつながるめぐるぐるプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畑の学校 (延べ 88 名) 都市農地を使って、さつまいも、大豆の作付けから収穫、加工 (味噌づくり) までを体験。 【実施期間：令和 4 年 5 月から令和 5 年 2 月まで】</li> <li>苗の植付：5 月 29 日 (日)・6 月 12 日 (日) 9 時～11 時 [参加者 8 名]</li> <li>収穫祭：10 月 16 日 (日) 10 時～ さつまいも掘り 14 時～ 「お花畑 heads」LIVE・マルシェ [三田ほんまち交流館 縁 / 参加者 39 名]</li> <li>味噌づくり：2 月 3 日 (金)・2 月 25 日 (土) 14 時～16 時 [有馬富士共生センター / 参加者 33 名]</li> <li>梅しごと (梅干しづくり) 梅干し、梅ジュース、梅酒など季節の梅しごとを体験。 日時：令和 4 年 6 月 17 日 (金) 13 時～15 時 場所：三田ほんまち交流館 縁 [参加者 7 名]</li> </ul>					
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日 (年-月-日)</b>			<b>事業概要</b>	<b>参加人数 (人)</b>	
					<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	R4	5	29	さつまいもの作付け	3	8
	R4	6	12	大豆の作付け	3	8
	R4	6	17	梅しごと (梅干しづくり)	2	7
	R4	7	24	草刈り・土寄せ	3	6
	R4	7	24	収穫祭打合せ	3	-
	R4	10	15	収穫祭打合せ	3	-
	R4	10	16	収穫祭	10	39
	R5	2	3	味噌づくり (1)	3	9
R5	2	25	味噌づくり (2)	2	24	

<p><b>事業効果</b></p>	<p>身近な食の体験づくりや収穫祭には延べ 101 名が参加し、活動を通じて子どもから高齢者まで幅広い世代が交流することで、畑を拠点とした新たなコミュニティの形成と、梅干しや味噌づくりを通じた食農教育につながった。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>事業採択の可否判断が作付け時期とタイミングがあわず、当初に規模を拡大した周知ができなかった。そのため栽培からの参加者は少数となったが、収穫祭では地元アーティストによる自然農の発信やマルシェなども同時開催することにより集客が図れたことから、団体としての活動を継続する中では有意義な活動であった。次年度以降も当該イベントを継続し消費者との交流にも力を注ぐ。</p> <p>また、今回は大豆の生育不良により、市内の福祉施設からの大豆提供による味噌づくりの実施となった。一方で参加者の栽培体験にこだわることなく他団体との連携により新たなコミュニティ形成や取組につながると実感できた。</p>

(活動状況写真)



畑の学校・苗の植付け



畑の学校・収穫祭



畑の学校・収穫祭 (マルシェ)



畑の学校・収穫祭 (お花畑 heads ライブ)



畑の学校・味噌づくり



梅しごと (梅干しづくり)



団体名 NPO 法人縁農ネット

団体設立 西暦 2010 年 12 月 20 日

活動分野 環境保全・子どもの健全育成

設立目的 三田市市内又は近郊の就農者や、農業に関心を持つ個人やグループなどを対象に、それぞれがつながりあう事業や、環境保全型農業の発展、地産地消を推進する事業をすることで、地域の環境保全やより安全な食生活の実現に寄与することを目的とする。

**事業名** ( 第17回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会 )

<b>団体名</b>	宝塚アカデミー音楽団	<b>代表</b>	和田 守弘		
<b>協働団体</b>					
<b>活動地域</b>	宝塚市 宝塚市近隣				
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>コロナ禍でここ数年、多くのイベントや公演が中止となり、多くの方々が気軽に音楽や芸術に接する機会が激減しました。</p> <p>そのような中、私たちの演奏で少しでも地域の方々が笑顔になるようなまたどの世代の方たちにも楽しんでいただけるコンサートを無料で開催することを目的とします。</p>				
<b>事業内容</b>	<p>第17回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会          令和4年8月3日からの大雨災害支援チャリティコンサート          開催日時：令和4年11月13日（日）13：15開場、14：00開演          開催場所：東りいたみホール          入場料：無料（全席自由・先着順）          収容人数1200人ホールでの2時間半程度の音楽コンサートの実施</p> <p>&lt;第1部&gt;          序曲祝典          マゼランの未知なる大陸への挑戦          エル・カミーノ・リアル</p> <p>&lt;第2部&gt;          ディズニー・ファンティリュージュン！          コパカバーナ          ラ・ラ・ランド          オペラ座の怪人</p> <p>&lt;第3部&gt;          「ウエスト・サイド・ストーリー」より “シンフォニック・ダンス”</p> <p>&lt;アンコール&gt;          風笛          ジャパニーズグラフィティIX いい日旅立ち（山口百恵メドレー）</p>				
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日（年-月-日）</b>		<b>事業概要</b>	<b>参加人数（人）</b>	
				<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	4	4 24～			
		11 12	定期演奏会に向けての練習・合奏	20-70	
	4	5 7	定期演奏会出演メンバー確定、練習計画打合せ	10	
	4	6 4	定期演奏会に関する打合せ	10	
	4	9 3	チャリティー支援先選定開始、チラシデザイン開始	5	
	4	10 1	選曲最終確定	5	
	4	10 14	東りいたみホール打合せ	5	
	4	10 20	定期演奏会宣伝スタート	10	
	4	10 20	プログラム作成開始	5	
	4	11 12	当日スタッフ打合せ	10	
	4	11 12	前日リハーサル	70	
4	11 13	第17回宝塚アカデミー音楽団定期演奏会	70	500	
4	11 27	実績報告書作成	5		



<p><b>事業効果</b></p>	<p>コロナ禍の為、生演奏をなかなか聴きに行けない方々にも、生演奏を聴くことによってリラックスや楽しんでいただける効果がある。 一般的なコンサートではなく、チャリティーコンサートにすることにより、私たちメンバーや観客が楽しめるだけでなく、全額支援先への金銭的支援ができる。</p> <p>お客様は約 500 名、コロナ禍の状況・宣伝不足・悪天候にも関わらず 500 名のご来場いただきました。 お客様の多くは喜びのお声をいただき、涙を流されながらお聴きいただいた方もいらっしゃいました。 おかげさまで、募金 ¥165,923 集まりました。 令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害支援募金（赤十字社）に全額寄付いたします。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>前回の定期演奏会よりコロナ禍状況により演奏会を延期したこともあり、3 年ぶりの開催となりました。いつもより演奏会にかかる練習時間は多くありましたが、演奏会に関する係りや開演時間、チラシ・プログラム作成等、コロナ禍で練習後の対面での打合せがやりにくい時期もあり（飲食店が閉まっている為、集まって打合せができない等）、また打合せを対面しない LINE でのやり取りが多く、いつもより時間がかかってしまった。</p> <p>今回の反省点・細かなところまで引継ぎ事項をまとめておく大切さを感じました。</p>

(活動状況写真)





**団体名** 宝塚アカデミー音楽団

**団体設立** 西暦 2000年 4月 1日

**活動分野** 音楽

**設立目的** 日頃コンサート会場に足を運ぶことが困難な、高齢者の方や未就学の子どもたち、さまざまなハンデを背負う方々の施設を訪れて、フル編成吹奏楽による出前コンサートをお届けしたい！という夢を叶えるため

**事業名** ( まちなかサロン「まちなか寄席～笑いで認知症予防～」 「まちの先生シリーズ」 )

団体名	まちなかサロン「ここ！イコ」		代表	久野由紀		
協働団体	市民グループ団体					
活動地域	伊丹市					
事業の目的・趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在社会において、少子高齢化が進み、人とひととの関係が希薄化。その上、核家族化による、一人暮らしの高齢者や子育てに悩む親子の孤立が深刻化。</li> <li>・このことから身近な空き店舗を利用し、「笑いと健康」をテーマに老若男女の地域住人が気軽に集い会える、地域における居場所を提供し孤独化を防ぐ。</li> </ul>					
事業内容	<p>まちなかサロン「ここ！イコ」(全14回)  開催日:令和4年7月25日・8月22日・8月27日・9月4日・10月16日・10月22日  11月6日・11月12日・11月26日・12月4日  令和5年1月14日・1月15日・1月26日・3月12日</p> <p>開催場所: フリースペース YAMAUCHI (伊丹市西台5丁目7-25)  内 容: 「まちの先生シリーズ」特技のある市民や市民活動をしている方を「まちの先生」として迎えておしゃべりしながら、様々な趣味に触れ楽しむ。また子育てのママと子ども定員のフリーマーケット。  「まちなか寄席」落語をとおして笑いと健康を提供する落語会。  定 員: 各8人~10人  フリーマーケット 定員 なし</p>					
事業スケジュール	実施日(年-月-日)		事業概要	スタッフ	一般参加者	
	4	7	5	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第1回	5	
		7	7	出演者の交渉	2	
		7	9	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第2回	4	
		7	11	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第3回	4	
		7	14	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第4回	4	
		7	25	まちなかサロン(1回目) ころを伝える絵手紙	1	6
		8	14	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第5回	3	
		8	22	まちなかサロン(2回目) ころを伝える絵手紙	1	3
		8	24	開催準備打ち合わせ	3	
		8	27	第1回まちなか寄席	2	8
		9	4	まちなかサロン(3回目) アクリル&パステルワークショップ	2	6
		9	10	会員打ち合わせ: 実施に向けての協議第6回	3	
		9	23	会員打ち合わせ: まちの先生シリーズ part3	4	
	10	1	出演者との打ち合わせ	3		
	10	16	まちなかサロン(4回目) アクリル&パステルワークショップ	2	3	
	10	22	第2回まちなか寄席	2	8	
	11	1	出演者との打ち合わせ	3		
	11	6	まちなかサロン(5回目) 認知症の人の行動には訳がある	2	7	
	11	12	第3回まちなか寄席	2	11	

5	11	13	会員打ち合わせ：実施に向けての協議第7回	5	
	11	25	フリーマーケット準備	6	
	11	26	まちなかサロン「フリーマーケット」	10	30
	12	4	まちなかサロン(6回目)折り紙でつくるお正月かざり	2	5
	12	10	出演者との打ち合わせ	2	
	1	14	第4回まちなか寄席	2	11
	1	15	まちなかサロン(7回目)はじめてのちぎり絵	2	6
	1	26	まちなかサロン(8回目)スワッグづくり	2	5
	2	6	出演者との打ち合わせ	2	
	3	12	第5回まちなか寄席	2	10



<p><b>事業効果</b></p>	<p>日頃交流の薄い地域の方が、お茶をしながら、回を重ねる事により</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ地域の方同士の交流を図ることができた。</li> <li>・趣味作りのきっかけづくり。</li> <li>・子どもから高齢者の異世代交流も図れた。</li> <li>・参加者の方が、進んでお手伝いをしてくれる様になり、提案もしてくれる様になった。</li> <li>・ご近所さん同士がひとり暮らしの高齢者を誘って参加していただけることができた事等、引きこもりがちな一人暮らしの地域の高齢者に笑いとおした居場所を提供することができた。</li> <li>・認知症の講座では、家族の介護や認知症に悩む、参加者同士の話の内容から、同じ悩みを共感することができた。困った時、どうすればいいのか等・悩みの解決のヒントになる情報交換ができた。</li> <li>・フリーマーケットでは、小学生の子どもや、高校生にも協力してもらう事ができた。子育てママグループの市民活動のきっかけづくりとなった。SDGsの取り組みとして子ども服や学校用品等の不要品を、これから必要とする子育て世代に有効に活用することができた。</li> </ul> <p>・まちなか寄席では、4回目より、子ども達が司会のお手伝いすることにより、子どもから高齢者まで一緒に寄席を楽しむ居場所を提供することができた。</p> <p>またサロンの開催を通して、地域の商店の方がチラシ掲載の協力・伊丹市のイベントと同日開催により市街地の活性化一助となることができた。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>人が集い、学び、つながる居場所として、参加者同士がわきあいあいと気軽に集える居場所になるには回数が必要と感じる。</p> <p>今後も回を重ねながら、地域の問題課題の解決と、多世代の交流を図っていきたい。</p>

## (活動状況写真)





**団体名** まちなかサロン「ここ！イコ」

**団体設立** 西暦 2022 年 4 月 1日

**活動分野** まちづくり

**設立目的** 地域の居場所づくりの場の提供を図り、地域生活における孤立を防ぎ健康な市民生活の援助を目的とする



<b>事業名</b>	( 大学生によるパソコンを使わないプログラミング教室)
------------	-----------------------------

<b>団体名</b>	ちびっこエジソン			<b>代表</b>	増岡		
<b>協働団体</b>							
<b>活動地域</b>	川西市						
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>今、小学校でプログラミングの授業が始まっているが、親からは自分の子どもだけが理解できなかったらどうしようという不安が聞かれる。また、その対策として民間のプログラミング教室に通わせようと思っても受講料が高く、経済的な理由で通わせられないという課題がある。</p> <p>そこで、プログラミングの知識がある地域の大学生、住民ボランティアの運営による、パソコンを使わないプログラミング教室を開催したい。パソコンを使わない、安価で、いつでも地域の誰もが参加できるような新しい取り組みでの地域づくりをしたい。</p> <p>また、地域活動に関心が薄い若者を巻き込むことで、地域の住民とつながりを持ち、地域活動に関わっていくきっかけづくりの場としたい。</p>						
<b>事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パソコンを使わないアンプラグドプログラミング教室を開催する             <ul style="list-style-type: none"> <li>※アンプラグドプログラミング（パソコンを使わないでプログラミング的思考を学ぶ方法）</li> </ul> </li> <li>●教室や地域で運営する活動を軌道に乗せるため3年計画で行う</li> </ul> <p>今年度の1年目は、地域の幼児や小学生対象のプログラミング教室の運営をスタートするとともに、運営メンバーの養成を行う。住民ボランティアの知識習得、地域の大学生に参加してもらう。</p>						
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日（年-月-日）</b>			<b>事業概要</b>		<b>参加人数（人）</b>	
					<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>	
	R4	4	28	第1回実行委員会	5		
		4	30	第2回実行委員会	4		
		5	6	第3回実行委員会	4		
		5	16	パソコンを使わないプログラミング教室①	5	10	
		5	20	第4回実行委員会	4		
		6	20	パソコンを使わないプログラミング教室②	5	10	
		7	4	第5回実行委員会	4		
		8	15	パソコンを使わないプログラミング教室③	5	12	
		8	19	第6回実行委員会	4		
		9	5	パソコンを使わないプログラミング教室④	5	8	
		10	17	パソコンを使わないプログラミング教室⑤	5	12	
	11	18	第7回実行委員会	5			

<p><b>事業効果</b></p>	<p>個人のパソコンがなくてはプログラミングに触れることができないと思っていたが、プログラミング的思考に触れることができ、参加した親子は満足していた。          プログラミングがどういうものが分からない親子が不安に思っていたが、プログラミング教室に参加することで、どういうことをするのかを理解できて、安心感につながった。          地域の中で子どもの教育に役立つ活動に気軽に参加できる場があることが、地域の住民に求められていることが分かった。          特に、プログラミング教室という新しい活動が地域の中に必要とされている声大きいことが分かった。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>コロナで外出を控えている住民が多いため、チラシを目にする機会が少なかった。広報の仕方を考え、地域の中でプログラミング教室が開催されていることを多くの人に伝えたい。          コロナ感染により、イベント参加者、大学生が思うように参加できないこともあったが、コロナに負けず、今年度の反省を活かして、地域の中に必要とされるプログラミング教室を地域の住民と若い世代と一緒に、地域活動として定着できるようにしていきたい。</p>

(活動状況写真)



団体名 ちびっこエジソン

団体設立 西暦 2012 年 4 月 1 日

活動分野 子どもの健全育成

設立目的 子どもの「なぜ? どうして?」という好奇心を大切に、  
 「見てみたい! やってみたい!」と思う心を育てる。

事業名 (伊丹 JAZZ CARNIVAL、伊丹ハロウィンツアー)			
団体名	Haz algo	代表	鹿嶋将慈
協働団体			
活動地域	伊丹市中心市街地		
事業の目的・趣旨	<p>「伊丹 JAZZ CARNIVAL」 音楽が溶け込む街の風景づくり。 子どもや大人が街を好きになるきっかけづくり。 街のにぎわい再構築。 中心市街地のみならず中心市街地域外の個店の PR の場づくり。 コロナで打撃を受けた個店や音楽家、また行動制限により長い自粛生活を余儀なくされた大人と子どもの憩いの場作り。</p> <p>「伊丹ハロウィンツアー」 子どもや大人が街を好きになる、街のお店を好きになるきっかけづくり。 街のにぎわい再構築。 マーケット開催では中心市街地のみならず中心市街地域外の個店の PR の場づくり。 コロナで打撃を受けた個店や行動制限により長い自粛生活を余儀なくされた大人と子どもの憩いの場作り。</p>		
事業内容	<p>中心市街地の事業者やまちづくり機関と連携し協力をいただきながら、事業の案内や開催準備を行った。市民を中心としたボランティアスタッフと共に当日開催を運営した。</p> <p>「伊丹 JAZZ CARNIVAL」R4 年 7 月 2 日 (土) 12:00~21:00/三軒寺前広場 JAZZ ミュージシャンの演奏ステージ。 露店営業許可を持つ飲食個店の露店販売や小物雑貨の露店販売、ワークショップなどのマルシェを開催 (ジャズ、音楽、アメリカなどをテーマにしたメニューやアイテムも用意)。 スーパーボールすくいなど子どもが楽しめる露店。</p> <p>「伊丹ハロウィンツアー」R4 年 10 月 29 (土) ツアー : 13:00~15:00/中心市街地の個店・事業者 マルシェ &amp; ステージ : 12:00~18:00/三軒寺前広場</p> <p>&lt;ツアー&gt; ● 中心市街地の個店・事業者約 30 店 (事業者) が協力。 ● 子どものグループが巡り trick or treat の合言葉でお菓子をもらう。(事前申し込み制) ● 対象は未就学児童と小学生 (計約 100 名) で、1 グループ子ども 10 名以内と保護者。 ● 計 16 グループが 3 ルートに分かれて時間をずらして回る。 ● 2021 年に試験的に実施したものを参加希望者が多かったため規模を拡大し実施。</p> <p>&lt;マルシェ &amp; ステージ&gt; ● ツアー受付会場の三軒寺前広場にてハロウィンマーケット (主にお菓子や雑貨の物販・ワークショップブース) や音楽・パフォーマンスステージの「マルシェ &amp; ステージ」を開催。 ● ツアーに参加できない子どもたちや保護者の方々にも楽しんでほしいという思いも込めて開催。ステージは子どもたちに人気のミュージシャン、けん玉のまち伊丹のけん玉ショップから高校生けん玉パフォーマー、伊丹の音楽教室やダンス教室の生徒たちによるダパパフォーマンスなど。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
事業 スケジュール	4	4	27	「伊丹 JAZZ CARNIVAL」主要ミュージシャンと 打ち合わせ、ステージ出演者ブッキング開始	3 6	
	4	5	19	「伊丹 JAZZ CARNIVAL」準備グループ設置		
	4	5	24	開催準備に向けた打ち合わせ	6	
	4	5	27	チャット内会議、協議開始		
	4	5	31	マルシェ出店者第一次募集開始	5	
	4	6	14	マルシェ出店者第二次募集開始	3	
	4	6	17	マルシェ出店者グループ設置、案内開始	3	
	4	6	18	ステージ出演者発表、出演者への当日の案内開始	8	
	4	6	20	当日ボランティアスタッフグループ設置、チャット ト内で案内、情報共有開始	12	
	4	6	25	マルシェ出店者発表	3	
	4	7	2	設営、開催	14	700
	4	7	14	開催結果報告、反省会	12	
	4	8	22	「いたみハロウィンツアー」準備グループ設置、 開催準備に向けチャット内会議、協議開始	6	
	4	8	23	ツアー協力店（事業者）声掛け・案内開始 出演者ブッキング開始	3 2	
	4	9	21	マルシェ出店者第一次募集開始	5	
	4	9	22	マルシェ出店者第二次募集開始	3	
	4	9	24	当日ボランティアスタッフグループ設置、チャット ト内で案内開始	16	
	4	10	4	ツアー参加者募集開始	3	
	4	10	9	ツアー協力店（事業者）グループ設置、訪問お よびチャット内での案内、情報共有開始 マルシェ出店者第三次募集開始	34 3	
	4	10	25	ツアー参加者へ詳細通知	3	
	4	10	26	マルシェ出店者発表、ステージ出演者発表	3	
	4	10	29	設営、開催 終了後反省会	50 20	1000
	4	10	31	簡易開催結果報告（協力店、マルシェ&ステー ジ出店者・出演者、ボランティアスタッフ）	50	
	4	11	3	ツアー協力店（事業者）へのアンケート回答依頼 開始	34	
	4	12	26	ツアー協力店（事業者）、マルシェ出店者・ステー ジ出演者、ボランティアスタッフへの詳細開催結 果報告開始（チャット内、訪問）	50	

<p><b>事業効果</b></p>	<p>「伊丹 JAZZ CARNIVAL」</p> <p>これまでジャズにこだわった音楽イベントの開催がなかったため、新たなタイプのイベント実施がまちの新たな賑わいづくりとなり好評であった。ジャズファン、音楽ファンはもちろん、子どもから大人まで幅広い層が楽しめる音楽ジャンルの演奏ステージが喜ばれ、特に気温が下がる夕方頃からは大きな賑わいを見せた。</p> <p>マルシェでは、新たなイベントのため来場者層に広がりがあり個店への新たな認知へのきっかけとなった。同一テーマでのメニューやアイテムの用意でイベントの一体感が出たことで来場者に喜んでいただけ購買動機が創出できた。</p> <p>コロナ禍で同規模のイベントがなかなか開催できていなかったため、気軽に楽しめる良い場がくれた。</p> <p>「いたみハロウィンツアー」</p> <p>ツアー参加者からは、子どもたちが楽しめたことの声はもちろん、知らなかったお店（事業者）を知れたことや行ったことがなかったお店（事業者）に行けたこと、お店（事業者）とのふれあいを多くの保護者に喜んでいただけた。</p> <p>ツアー協力店（事業者）からは、子どもたちの笑顔や子どもたちとのふれあいを喜んでくれたことのほか、店（事業者）を知ってもらいきっかけになったこと、日頃のターゲット層以外の方々と出会えたこと、まちが活気づいたことを多くの店（事業者）から喜んでいただけた。</p> <p>これまで、ハロウィンに関するマルシェイベントが開催されていなかったため、楽しみにしてくれていた方も多く、楽しんでいただけた。出店者やステージ出演者、スタッフがハロウィン仕様で出店、出演、運営したことで、より盛り上がり、ステージは子どもたちに楽しんでもらえる質のいいパフォーマンスを提供でき、喜ばれた。ツアーに参加できなかった子どもたちも仮装の上で来場できる機会を設けられたことはとてもよかった。</p> <p>まちや事業者の魅力再発見の機会、楽しい場の提供、まちの新たなにぎわい創出ができ、コロナ禍以降に繋がる活気づくりにもなったと思う。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>「伊丹 JAZZ CARNIVAL」</p> <p>予想を超える暑さ（猛暑）で日中の集客が想定以下であった。開催時期を見直したい。また、一箇所だけの実施ではなく、同時複数箇所での実施など、ジャズ、音楽を通じたまちの賑わいづくりを目指して、より充実したイベント開催へと繋げたい。</p> <p>「いたみハロウィンツアー」</p> <p>ツアー参加者決定・通知が当日近くとなったため少し混乱を招いた。早めのスケジュール設定での実施が必要。ツアーのルート上にスタッフを配置していたが参加者代表に負担をかけたためグループ1つ1つにスタッフを配置して丁寧に対応したい。ツアーは今後ルートを広げ規模を拡大し、より多くの子どもたちに参加してもらえるようにしたい。マルシェ&amp;ステージでは、風が強くハロウィンの飾り付けがあまりできなかったため、装飾方法を工夫したい。</p>



(活動状況写真)

伊丹 JAZZ CARNIVAL



いたみハロウィンツアー



**団体名** haz algo

**団体設立** 西暦 2022 年 4 月 20 日

**分野活動** イベントの企画、運営

**設立目的** 伊丹の街をより面白く楽しい街にする、伊丹のファンづくり。  
伊丹市内で老若男女を問わず面白い・楽しくなるイベントの企画運営を行ない、地元住民と事業者との新たな出会いや絆を深めることを目的とする。



**事業名** (パンづくり男性ボランティア養成事業「パンダ・プロジェクト」)

団体名	男性の地域社会デビューを応援する会(略称だんデー会)	代表	土井 一雄
協働団体	伊丹パンダチーム		
活動地域	伊丹市		
事業の目的・趣旨	<p>現状の地域社会活動での課題のひとつが、女性に比べ極めて低い男性の参加率を高めること。その解決策として、神戸KIITO から始まった「パンじいイベント」のノウハウをベースに、だんデー会では2021年度より、パンづくり男性ボランティア養成事業に着手。地域社会の活性化に寄与する活動を進めています。</p>		
事業内容	<p>●神戸KIITOによるパンづくり男性ボランティア養成事業の名称は「パンじい」ですが、伊丹ではパンづくり男性(だんせい)の愛称として、パンダと呼ぶことにしました。</p> <p>●家庭用オーブンを使ったパンづくりをプロの職人から学ぶ 「パンダ2期生養成講座」を昨年に続き開催 開催時期 令和4年10月～11月 プロから学ぶ講座2回、自主練習日2回 開催場所 ガオさんのパン工房伊丹&amp;いきいきプラザ調理室 講師 伊丹の「ガオさん家のパン屋」のオーナー・シェフ井上賀夫氏 2期生3名は12月より伊丹パンダチームに参加。ボランティア活動を始めています。</p> <p>●パンづくりを軸に地域の多世代交流促進を目指す「パンダ・カフェ」を開催 開催時期 令和4年9月から毎月第4日曜日開催、ただし、令和5年からは毎月開催を改め隔月開催、奇数月の開催に。 開催場所 伊丹いきいきプラザ調理室 開催時間 朝9時から17時 9時よりパンダチーム・メンバーの自主練を兼ねたパンづくり教室を開催。パンダチームの正式メンバーは設立趣旨に基づいて男性のみに限定していますが、「パンダ・カフェ」を地域の多世代交流の場にしたという狙いもあり、パンづくり教室には、パンづくりを学びたいという女性やお子様方の参加を認め、文字通り多世代の方にパンづくりを楽しんでいただき、午後からのカフェタイムでは、自分たちで作ったパンに、パンに合わせた軽食メニューをセットにして食べることも楽しんでいただくようにしています。</p> <p>パンづくりに関心のない方にもパンダカフェに参加していただくための仕掛けとして午後からのカフェの冒頭に、ミニセミナーを開催し、終了後に参加者全員にセミナーテーマへのご意見と自己紹介をしていただくタイムを設け、出来るだけ参加者全員交流できるようにしています。セミナー時間はお子様には退屈なので、お子様グループは早めに食事タイムを設け、セミナー前に帰っていただくようにしています。</p> <p>全員交流効果のひとつとして交流タイム終了後の片づけは全員参加で行っています。片づけ後、パンダチームメンバーで運営会議を行い、役割分担を決めています。</p> <p>昨年9月からスタートしたミニセミナーは、9月、10月は「人生百年時代の後半人生の歩きたかたを考える」をテーマに、11月から令和5年にかけては、食生活の改善をテーマに行いました。</p> <p>なお、パンダ・チームメンバーのスケジュールを考えると毎月開催は厳しいので隔月開催にしてほしいという意見が出され検討した結果、令和5年からは奇数月の開催にしようということになりました</p> <p>●講師に、パンダ養成講座の講師・井上氏を紹介するなど、視覚障がい者のためのパンづくり教室の開催をサポート、パンづくりを通じたボランティア活動を他団体と連携して展開する活動も積極的に始めています</p>		

	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
					4	4
	5	7	だんデー会定例会：令和5年度活動方針検討	6	8	
	5	8	視覚障がい者のためのバンづくり教室支援	4	4	
	5	22	第1回バンダ・カフェ・テスト開催	4	6	
	6	26	第2回バンダ・カフェ・テスト開催	4	0	
	7	8	大阪ガス・エネルギー文化研究所遠座氏打ち合わせ	1		
	7	24	コロナまん延で、バンダカフェ本番開催中止			
	8	28	バンダカフェ中止			
	9	15	宝塚・鶴の荘カフェ、遠座氏とセミナー打ち合わせ	1		
	9	25	第1回バンダカフェ開催			
			人生百年時代の歩き方を考えるミニセミナー付き	6	10	
	10	1	だんデー会定例会：バンダ養成講座について	6		
	10	9	視覚障がい者のためのバンづくり教室支援	4	8	
	10	13	第2期バンダ養成講座プロ指導教室1回目	2	6	
	10	23	9時からバンダ養成講座自主練教室1回目			
			13時からミニセミナー付き第2回バンダカフェ	4	12	
	11	13	第2期バンダ養成講座 プロ指導教室2回目	4	8	
	11	27	バンダ養成講座 自主練教室			
			第3回バンダカフェ	2	8	
	12	3	だんデー会定例会	6		
	12	11	2期生養成講座終了&バンダチーム参加報告会	4	15	
	12	22	神戸KIITO 令和4年活動報告	1		
事業 スケジュール	5	1	22	バンダ自主練教室		
				第4回バンダカフェ	6	20
		2	4	だんデー会定例会：実績報告書づくりのために	6	
		3	18	令和4年度ラスト自主練教室&バンダカフェ	4	20

事業効果	<p>バンダ養成事業も2期目を迎え、修了生のバンダチームへの参加により、ボランティア・サークル”伊丹バンダチームの基礎固めが出来、メンバーによる自主運営体制も確率された。さらに本年度はバンダ養成講座、バンダカフェの自主練教室へ、サポーターとして女性、子供達の参加を認めることにより、地域の多世代交流の促進にも寄与できるようになった。</p>
課題及び今後の展望	<p>2期目を終えて伊丹バンダチームの人材面での基礎固めが出来たので、活動の継続化を目指し、様々な面で他の地域活動団体との連帯強化やコミュニティービジネス化を積極的に図りたいと考えている</p>

## (活動状況写真)



団体名 男性の地域社会デビューを応援する会

団体設立 西暦2019年3月

活動分野 リタイア男性支援、多世代交流促進

設立目的 会名通り 現状では女性に比べ極めて低い地域社会活動への男性の参加率を高めることを目指している。そのために、人生百年時代の新たな生きがいをづくりとして提案し活動を展開中なのが、バンダ養成事業です。



**事業名** (宝塚子供と自然のふれあいプロジェクト)

団体名	宝塚フレミラしぜんクラブ	代表	榊原信行		
協働団体	フレミラ宝塚・宝塚市立老人福祉センター				
活動地域	宝塚市				
事業の目的・趣旨	フレミラいきいき学舎で自然について学んだ宝塚市在住の60歳以上の卒業生がクラブの会員になり、近隣の子供達に自然と触れ合うことの楽しさを教え、会員も子供達と一緒に楽しむ。又、会員は勉強会等に参加して自然について学びを深める。				
事業内容	<p>「野外観察会」の実施          日時：2022年7月9日土曜10時～14時          場所：神戸北再度公園周辺          内容：兵庫県立人と自然の博物館・小館顧問による野外観察会</p> <p>「わっしょい秋祭り」          日時：2022年10月29日土曜9時～14時          場所：フレミラ美術工芸室          内容：近隣小学生を対象に、どんぐり、松ぼっくり、竹つつで、置物、写真立てを作る</p> <p>「野鳥の巣箱作り」          日時：2022年12月26日月曜9時～14時          場所：フレミラ教室          内容：近隣の小学生を対象に自然保護協会の足立顧問による野鳥の話と、事前にカットした材料で巣箱を作る。</p>				
事業スケジュール	実施日(年-月-日)		事業概要	参加人数(人)	
				スタッフ	一般参加者
	2022	7	9	8	
		10	5	8	
		10	27	9	
		10	29	9	27
		12	18	6	
		12	26	7	14
2023	1	11	反省会	8	

事業効果	「野外観察会」は繰り返し行うことで一度では覚えきれない知識が蓄積されていく。「わっしょい秋祭り」は自然の物を使って、作り上げる過程の楽しさと完成時の達成感を味わうことができる。「巣箱作り」に参加した子供達と大人は皆初めての体験で、全員が楽しみを味わい、又、野鳥への知識が深まり、物作りの喜びを味わうことができた。
課題及び今後の展望	2つのイベントの告知は市の広報誌によるもので、親が目を通し、親の判断で参加を決める。野鳥の巣箱作りは親がなじみが無く、当初参加は1名のみであったが足立顧問の尽力で近隣の小学校が各家庭にメールを送り、結果14名もの参加になった。課題は①子供自身の判断での参加。②親子揃っての参加。③メールでの告知。④新しい助成金先を見つけること。①②③④をいかに実現させるかである。今後とも地道に、繰り返し、この活動を続けていきたい。

## (活動状況写真)



野外観察会



わっしょい秋祭り①



わっしょい秋祭り②



わっしょい秋祭り③



野鳥の巣箱作り①



野鳥の巣箱作り②



野鳥の巣箱作り③



反省会

団体名 宝塚フレミラしぜんクラブ

団体設立 西暦 2019 年 5 月 23 日

活動分野 子供の健全育成

設立目的 フレミラいきいき学会で自然について学んだ宝塚市在住の 60 歳以上の卒業生がクラブの会員になり、近隣の子供達に自然と触れ合うことの楽しさを教え、会員も子供達と一緒に楽しむ。又、会員は勉強会等に参加して自然について学びを深める。

## 事業名

(安心できる場所と反差別の価値観を共有できる仲間づくり事業)

団体名	特定非営利活動法人猪名川つながり創造研究所	代表	西田啓治		
協働団体					
活動地域	主として猪名川町域				
事業の目的・趣旨	猪名川町を中心に人権をキーワードにした出会いと交流の場をつくり、豊かなつながりを創出することをめざす。そのため、身近な暮らしにかかわる人権課題についての学習や啓発の機会を提供し、「ともに考え、ともに学ぶ」ことを通じてネットワークの深まりや広がりを生み出す。これらの活動により、一人ひとり互いを尊重し、人権意識を大切にする人があふれる地域社会づくりに寄与することを目的とする。				
事業内容	<p>学びの場づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>暮らしの中にある様々な人権課題についての学び <ul style="list-style-type: none"> <li>① 暮らしの中での障がい者の人権 日付：令和4年10月8日 参加人数：10人</li> <li>② 「人はなぜ人を差別するのか」勉強会（全3回） 日付：令和4年12月14日（第1回） 令和5年1月25日（第2回） 2月22日（第3回） 参加人数：各5人</li> </ul> </li> </ul>				
事業スケジュール	実施日（年-月-日）		参加人数（人）		
			スタッフ 一般参加者		
事業スケジュール	R4	5 11	理事会	6	
		5 18	理事会	6	
		6 8	理事会	6	
		6 18	定期総会	6	
		7 6	理事会	6	
		8 31	理事会	5	
	R5	9 27	理事会	5	
		10 8	人権学習会「暮らしの中での障がい者の人権」	5	10
		12 14	第1回勉強会「人はなぜ人を差別するのか」問題提起	5	5
		1 25	第2回勉強会「人はなぜ人を差別するのか」共通認識	5	5
		2 22	第3回勉強会「人はなぜ人を差別するのか」本質探る	5	5
		3 8	理事会	5	
3 26	理事会	5			



事業効果	令和4年10月8日に開催した「暮らしの中の障がい者の人権を考える」学びの場では、マイノリティの人々が抱える生きづらさやしんどさに共感し、あらためて反差別の価値観を共有するネットワークづくりに資するという初期の目的を達成することができたほか、「人はなぜ人を差別するのか」といった3回シリーズの学びの場事業では、会員が持ち回りでホスト役を務め、一般参加者とともに幅広い人権課題の本質に迫る機会を設けたことで、「ともに考えともに学ぶ」という目的を達成するとともに、人権にかかる深まりのあるネットワークを創造することができた。
課題及び今後の展望	新型コロナの感染拡大の影響などを受け、当初の計画通りの事業展開をはかることはできなかった。今後は事業を通して構築することができた「人のつながり」を活用し、ともに活動する仲間づくりと、従前からの地道な活動に工夫を加えた取り組みを継続していくこととする。

## (活動状況写真)



団体名 特定非営利活動法人 猪名川つながり創造研究所

団体設立 西暦 2020年7月1日

活動分野 人権擁護

設立目的

人権問題を考えるネットワークを構築し、すべての人が自分らしく生きるための活動を幅広く展開し、人権意識の高い地域社会づくりに寄与していくことを決意して設立した。目的を達成していくために主として①ネットワークづくり、②相談支援・寄り添い活動、③社会啓発事業、④人材育成事業、⑤調査・研究の5つの柱を立て、事業を通して多くの理解者、賛同者に設立目的を呼びかける。

<b>事業名</b>	( 自主防災会拠点整備及び防災マップ作成事業 )
------------	--------------------------

<b>団体名</b>	けやき坂小学校区自主防災会	<b>代表</b>	大田充司		
<b>協働団体</b>	けやき坂コミュニティ協議会				
<b>活動地域</b>	けやき坂小学校区				
<b>事業の目的・趣旨</b>	自主防災会第二拠点整備による有事の際利便性・機動性の向上を図る 地区特性に合った防災マップを作成し現状認識の上有事に備える 自主防災訓練による地区住民の防災意識の向上、共助体制の確立				
<b>事業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 避難、避難誘導、救出救護、初期消火訓練を適宜行う</li> <li>2. 地区危険個所情報を収集し防災マップを作成する</li> <li>3. 防災意識啓発活動として地域別訓練を行う</li> <li>4. 自主防災組織構成員を常時ホームページにて募集</li> <li>5. 資機材保管場所に第二拠点を設け機動性・利便性を高める</li> </ol>				
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日 (年-月-日)</b>	<b>事業概要</b>	<b>参加人数 (人)</b>		
			<b>スタッフ</b> <b>一般参加者</b>		
	R 4	6 15	役員・ブロック長会議	18	
		7 16	第一ブロック地区別避難誘導防災訓練	6	12
		8 20	第二・三ブロック地区別避難誘導防災訓練	10	30
		9 6	ゼンリン地図使用打ち合わせ 川西市役所	2	
		17	第四・五ブロック地区別避難誘導防災訓練	6	29
		10 15	第六ブロック地区別避難誘導防災訓練	6	17
		24	福祉見守り会議 (要支援者対策)	1	20
		30	自主防災会活動写真展示パネル作製	2	
		11 4~5	文化祭会場にて活動写真パネル展示		1000
		19	第七ブロック地区別避難誘導防災訓練	10	80
		25	川西市自主防災組織連絡協議会出席	2	
		12 21	役員・ブロック長会議	18	
	R 5	1 10	川西北消防署との訓練打ち合わせ	4	
		" 11	避難所設置訓練及び避難所運営訓練	2	
		" 18	防災出前講座と心肺蘇生体験講習	6	50
		2 19	専門班別総合防災演習	20	35
		25	けやき坂地区総合防災訓練	30	90

<p><b>事業効果</b></p>	<p>第二拠点を整備することができ地域的に機動性利便性を高めることができた。 新しい防災マップにAED設置場所を追記したことにより救命体制をさらに強化できた 地道な防災訓練を実施したことにより自助・共助・公助の防災意識を高めることができた</p>
<p><b>課題及び 今後の展望</b></p>	<p>組織活動を継続できる体制を維持するために、後継者の育成を目指して活動してきたが 自ら進んで参加するまでの意識の向上は見受けられず。スタッフの高齢化も進んでおり 課題解決に至っていない。 なお地道な活動を継続することが解決につながると期待する。</p>

(活動状況写真)

R4/10/15 4丁目 防災訓練



R5/01/18 出前講座



団体名 けやき坂小学校区自主防災会

団体設立 西暦 1996 年 7 月 14 日

活動分野 災害救助・防災

設立目的 住民の隣保共同の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、災害被害の防止および軽減を図ることを目的とする。

**事業名** (あかしあ台・さくら坂 ファミリーハイキングと名所探索)

団体名	あかしあ台体育振興会	代表	竹中 克明
協働団体	あかしあ台自治会、あかしあ台・さくら坂まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進員		
活動地域	三田市あかしあ台小学校区		
事業の目的・趣旨	<p>三田市あかしあ台小学校校区（あかしあ台、さくら坂 約 3000 所帯）住民の健康増進と相互親睦を図る目的で 2003 年度より継続して当該行事を続けてきましたが 新型コロナウイルス蔓延による影響と規制により今回が 3 年ぶりの開催。疲弊した住民の心身と地域住民のつながりや親交を取り戻す為に可能な限りの安全対策を講じ、自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進員の皆様とも連携して当該行事を実施。</p> <p>また、当該地区でも高齢化が進み日ごろ外出する機会の少ない高齢者の皆様や子育てで多忙な毎日をご過ごしている住民、お体の不自由な方にもあかしあ台体育振興会のメンバーがサポートして実地。</p>		
事業内容	<p>*あかしあ台体育振興会が中心となり あかしあ台自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進員も協力して運営組織を結成。</p> <p>*チャーターバスを利用し 春の「六甲山頂ファミリーハイキング」と秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」を開催。</p> <p>1)「六甲山頂ファミリーハイキング」(春)  開催日時： 令和 4 年 5 月 29 日 (土) 午前 8 時～17 時  開催場所： 六甲山頂 ハイキングコース (6 km ・ 10 km)  内容： 参加者 207 名 (事前応募形式)  *あかしあ台⇄六甲山頂 チャーターバスのピストン輸送 (1 台)  六甲山自然案内人の会の皆様の協力を得て絶景スポットや高山植物等六甲山の魅力をガイドいただきました。</p> <p>2)「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」(秋)  開催日時： 令和 4 年 11 月 19 日 (土) 午前 7 時～19 時  訪問先： 淡路島 (淡路ワールドパーク Onokoro, 渦潮クルーズ (福良)、たこせんべいの里、淡路クラフトサーカス等)  内容： 参加者 150 名 (事前応募形式)  *あかしあ台⇄淡路島 チャーターバス使用  探索ハイキングを楽しみ渦潮も含めた兵庫県内 淡路島の魅力を再発見。</p>		

	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
事業 スケジュール	4	5	7	あかしあ台体育振興会 実行委員会開催と行事に向けての詳細の検討 募集準備等	16	
	4	5	8	六甲山頂ハイキングの試歩・下見	16	
	4	5	15	あかしあ台体育振興会、あかしあ台自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進員の代表による合同打ち合わせ	35	
	4	5	28	スタッフ会議 (事前準備と担当振り分け)	40	
	4	5	29	春の「六甲山頂ファミリーハイキング」開催	46	207
	4	6	4	秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」下見	10	
	4	6	19	実行委員会開催 春の「六甲山頂ファミリーハイキング」総括と秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」 詳細決定	35	
	4	7	30	秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」再下見と実行委員会 (行程の変更)	10	
	4	9	17	実行委員会開催 訪問地、バス会社などの手配確認	17	
	4	10	15	秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」一般参加受付	10	174
	4	10	30	一般参加者第2回参加受付	10	48
	4	11	12	体育振興会全体打合せ あかしあ台体育振興会、あかしあ台自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進員の代表による合同打ち合わせ	20 7	
	4	11	18	実行委員会 (最終準備・確認など)	16	
	4	11	19	秋の「淡路島 おのころファミリーハイキングと名所探索」開催	30	150



事業効果	<p>新型コロナ 第8波の拡大の懸念から一般参加受付時点で定員オーバーの状態であったが高齢者を中心にキャンセルが直前に増えたが参加した家族、友人連れの皆様からは多くの充実した行事への多くの評価をいただいています。また、コロナが終息の兆しを見せない中ではあります少しづつコロナと共存して本来の行事目的である“住民間の交流と親睦”が可能となる地域唯一の機会との期待の声も多く 今後もあかしあ台体育振興会、あかしあ台自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協会、健康推進員の団体と共に当該行事をより積極的に推進してまいります。</p>
課題及び今後の展望	<p>一番の課題は当該行事において万全の感染対策を実施しているにもかかわらず新型コロナの繰り返される感染拡大を報じるマスコミなどに影響され 参加希望者が直前になってキャンセルされたこと。行政も含めてコロナの感染者数ばかりを発表したり報道するのではなくワクチン接種によりどの程度の感染抑止効果があるのか、変異する株がどのような特徴を持っているのか、感染してしまった場合の投薬の現状や治療方法の更なるさらに詳しい説明、その他、県としてもきちんとアップデートした情報開示と告知をお願いしたい。当該行事に関しては今後もコロナによって3年間開催が出来なかった地域の祭りでの当該行事の財政基盤の一部を取り戻して安定的・継続的に行事が推進できることを目指します。</p>

## (活動状況写真)



2022年5月29日 六甲山上ハイキング



2022年11月19日 淡路おのころハイキングと名所探索

団体名 あかしあ台体育振興会

団体設立 西暦 2003 年 4 月 1 日

活動分野 まちづくり、スポーツ、地域安全

設立目的 三田 あかしあ台小学校区（あかしあ台・さくら坂）の地域活動を通じて住民の健康増進と相互親睦・交流を推進するために設立。

## 事業名 ( Fun Fun English ! はじめてのたのしいえいご体験 )

団体名	A p p l e E n g l i s h	代表	増岡 由紀子			
協働団体						
活動地域	川西市					
事業の 目的・趣旨	<p>乳児に対しては市が催すイベントが多くあるが、幼児（4～6才）になると減る。 また、コロナで行き場所をなくして、孤独にひとりで子育てに不安を抱えている親子がいた。 そこで、地域の中でいつでもだれでも気軽に集まれ、地域の中で助け合える場を早急に作る必要があった。</p> <p>幼児を持つ親子がぜひ参加したいと思えるように、既存の地域活動とは違った今の時代に合った子育て、新しい世代の求める地域のあり方を取り入れ、今の地域の親子の関心が高い英語教育を取り入れた活動を立ち上げた。</p> <p>また、子どもの成長のために地域活動に興味を持っている保護者がいながら、活動に活かせていない現状があるので、活動で地域の良さを知ってもらい、地域の方が活動を運営するきっかけにしたい。</p>					
事業内容	<p>●実行委員会 7回開催 ●たのしいえいごを5月～11月まで10回開催</p> <p>幼児（4～6才）とそのきょうだい（乳児・小学生）を対象とし、英語体験のイベントを公民館で開催する。</p> <p>初めて英語に触れる子どもにも楽しいと思ってもらえるよう、歌やダンスをしながら、英語に慣れてもらう。目的は親子の居場所づくりなので、英語を通じて楽しんで参加しやすい内容にする。（英語絵本の読み聞かせ アルファベットで遊ぼう 色遊び 動物遊び かず遊び 服の着せ替え遊び等）</p> <p>参加する保護者にも、活動を手伝ってもらおう。</p>					
事業 スケジュール	実施日（年-月-日）		事業概要		参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	R4	4 26	第1回実行委員会		4	
		5 2	第2回実行委員会		5	
		5 6	第3回実行委員会		4	
		5 10	たのしいえいご①		4	8
		5 24	たのしいえいご②		4	
		6 7	第4回実行委員会		5	
		6 14	たのしいえいご③		4	10
		6 28	たのしいえいご④		4	10
		7 12	第5回実行委員会		4	
		7 26	たのしいえいご⑤		4	16
		8 9	たのしいえいご⑥		4	16
		8 23	第6回実行委員会		5	
		9 13	たのしいえいご⑦		4	16
		9 27	たのしいえいご⑧		4	16
		10 11	たのしいえいご⑨		4	18
	10 25	たのしいえいご⑩		4	18	
	11 22	第7回実行委員会		5		



<p><b>事業効果</b></p>	<p>今まで、幼児対象の地域の中でのサークルなどがなく、親子で孤独を感じている現状があったが、地域の公民館で定期的に集まれる場ができ、親子とも楽しく安心して過ごせるようになった。</p> <p>また、小学校から始まる英語教育に対して、不安を感じている親子に英語教育がどんなものを体験してもらうことで、興味を持って参加してもらえた。</p> <p>コロナ禍で遠くに行けず、子どもが色々な体験をする機会が減っていたが、英語体験を通じて、子どもに新たな楽しい体験を地域の中でさせることができ、とても親子が満足していた。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>今年度は、英語教育を立ち上げることができた。その中で、地域の中で気軽に参加できる英語イベントが必要で、英語教育に関心がとても高いことが分かったので、来年度は、今後も続けていけるように体制を整えることをしたい。</p> <p>コロナ感染予防のため、親子があまり外に出ないので、チラシを見る機会が少なく、イベントがあることを効果的に伝えられなかった。チラシやポスター以外の効果的な宣伝方法を考える必要がある。</p>

(活動状況写真)



団体名 Apple English

団体設立 西暦 2010 年 4 月 1 日

活動分野 子どもの健全育成

設立目的 英語に興味のある 4~6 才の親子が集まり、楽しい遊びや、絵本の読み聞かせを通じて、未就園児を持つ親同士が互いに子育てを学び、地域の子育てネットワークづくりと、地域の教育力を充実させる場としたい。

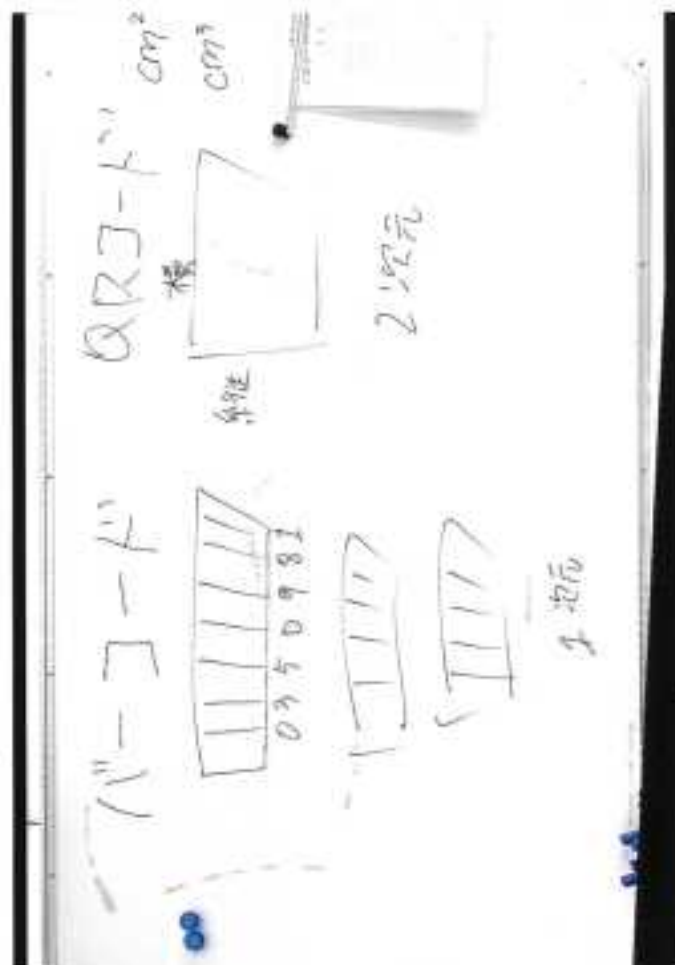


**事業名** ( デジタルカアアッププロジェクト )

<b>団体名</b>	はじめてパソコン	<b>代表</b>	朝山克俊		
<b>協働団体</b>					
<b>活動地域</b>	伊丹市				
<b>事業の目的・趣旨</b>	<p>内閣府の高齢者化白書によると2021年9月15日時点での高齢化率は29,1%。また、2065年には38%を超えるだろうといわれています。</p> <p>その中で、急激に進む情報化社会についていけないシニア世代の方たちがいる。そして孤立しているのも事実である。</p> <p>本事業はそんなシニア世代を対象に、パソコンやスマホの基本技術のみならずインターネットでの検索やQRコード等の技術や知識を学びながらワイワイガヤガヤ楽しくみんなと繋がることにより孤立を防ぐことを目的とする。</p>				
<b>事業内容</b>	<p>QRコードでのコロナワクチン接種の予約やインターネットを使った検索など行政を含めた現代の情報化技術に対応してもらうためにパソコンやスマホの基礎の操作も分かっていない60代後半～80代後半の方を対象にした。</p> <p>最初はおそろおそろだった方も、説明して実践してもらうと理解が深まったらしく、別の参加者同士で教えあったりしていた。団体でのグループLINEを作成し、メッセージのやり取りをした。これにより孤立化を防ぐ一定の効果は得られたと感じている。</p> <p>参加者の方も出来ることが増えていったらしく、日常生活に生かしたいとの声が多数聞かれた。</p>				
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日(年-月-日)</b>		<b>事業概要</b>	<b>参加人数(人)</b>	
				<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	R4	6/11	パソコンの基礎(マウス操作・キーボード操作)	3	6
	R4	6/18	パソコンの基礎(文字の打ち方①)	3	8
	R4	7/9	パソコンの基礎(文字の打ち方②)	3	8
	R4	9/17	パソコンの基礎(デスクトップ等の画面構成)	3	6
	R4	10/8	パソコンの基礎(デスクトップ等の画面構成)	3	7
	R4	10/15	パソコンの基礎(フォルダ・ファイル)	3	8
	R4	11/12	パソコンの基礎(フォルダ・ファイル)	2	5
	R4	11/19	パソコンの基礎(フォルダ・ファイル)	2	5
	R4	12/10	パソコンの基礎(フォルダ・ファイル)	3	7
	R4	12/17	パソコンの基礎(フォルダ・ファイル)	3	4
	R5	1/14	スマホの基礎(インターネット)	3	6
	R5	1/21	スマホの基礎(インターネット)	3	7
	R5	2/04	スマホの基礎(QRコード)	3	9
	R5	2/18	スマホの基礎(クラウドサービス)	2	6
	R5	3/04	スマホの基礎(クラウドサービス)	2	6
R5	3/18	専門用語の解説	2	6	

事業効果	<p>「インターネットを使っのマイナンバーカードの申請やQRコードを早々に日常生活で使えた」という声が多かった。技術が使えることにより困った時に「自分の欲しかった情報を自分で入手出来るようになった」。また「その技術を悪用した怖さも習うことが出来た」。参加者同士のネットワークが広がっていき孤立化を防ぐことが出来た。グループLINEでのメッセージのやりとりも増えて口コミで参加者の方が同じマンションの方を誘ってくださったりして人数が増えていった。参加者(市内ボランティア活動の団体)の方に協力し、ZOOMでデイケア施設を繋いだオンライン交流会を指導・実施した。</p>
課題及び今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね計画通りに進められたが、一部実施出来なかった項目があった。</li> <li>・また、団体が作成した資料に対して「分かりにくい」とのご指摘も受けたため、自宅での学習も可能になるような理解しやすいテキスト作りに今後は努めていきたい。</li> </ul>

(活動状況写真)



団体名 はじめてパソコン

団体設立 西暦 2017年08月01日

活動分野 高齢者福祉

設立目的 シニア世代に情報化技術を伝えるため

**事業名** ( AI お悩み相談24aiueoBOT )

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 AI ラボ宝塚		<b>代表</b>	中西輝亮	
<b>協働団体</b>					
<b>活動地域</b>	宝塚市全域				
<b>事業の目的・趣旨</b>	AI を活用することで、高齢者のための孤独孤立の解消、問題解決の相談窓口、生き甲斐創出、パソコン難民救済の窓口を創設する。				
<b>事業内容</b>	<p>地政学的「宝塚市」は物理的な距離では三権分立と距離を置いています。しかし、現在のインターネット社会ができる以前から首都圏との文化交流が深く日常会話などでも多くの市民が標準語を使い、現在のネット社会時代に至っては益々盛んな文化交流がされ、従来の経済活動を凌駕するポテンシャルまで生育されています。</p> <p>高齢者孤独、悩み相談、問題解決への入り口として「AI お悩み相談 24 aiueoBOT」のリリース運営を行った。拡散普及手段は保有オプトインメアド 25,000、メアド収集配信、ポステイング新聞 10,000 を実施。</p>				
<b>事業スケジュール</b>	<b>実施日 (年-月-日)</b>		<b>事業概要</b>	<b>参加人数 (人)</b>	
				<b>スタッフ</b>	<b>一般参加者</b>
	2022	6 30	AI お悩み相談 24 aiueoBOT(ジンセンボッテイ) ホームページ第一画面公開	4	
		9 30	AI お悩み相談 24 aiueoBOT(ジンセンボッテイ)構築	4人	SNS100人
		11 10	AI お悩み相談 24 aiueoBOT(ジンセンボッテイ) LINE サービス開始	4人	SNS100人
	2023 1 30	AI お悩み相談 24 aiueoBOT (ジンセンボッテイ) ポステイング新聞 10000 枚配布	6人		

<p><b>事業効果</b></p>	<p>SNS100人程度配布しました結果、多くの人が、驚きの反響がありました。 また、宝塚地区にもポスティングを行い、住民の方より事業内容が大変興味深いとの反響がありました。普及に十分な手応えがありました。</p>
<p><b>課題及び今後の展望</b></p>	<p>まだ高齢者に向き合ったアプローチが不十分な所があり、より講習会を開催して、高齢者向けの普及を目指して行きます。</p>

(活動状況写真)



団体名 特定非営利活動法人A I ラボ宝塚

団体設立 西暦 2021年12月7日

活動分野 AIを利用して高齢者の生活を豊かにする

設立目的 この法人は、孤独な高齢者に対しては、AIを用いたツールで支援に関する事業を行い、より豊かな日常生活ができることを目的とします。また、手軽なスポーツのテニスを通じて、より健康になり、AIコーチによるコミュニケーションが取れることを目的とする。さらに、AI先生を利用して子供たちにも応用して、平等な教育を受けることを目的とする。